行財政改革の推進に関するアンケート

調査結果報告書

船　橋　市

目　　次

Ⅰ．調査概要 1

Ⅱ．調査回答者の属性 3

Ⅲ．調査結果の分析 8

１．「今後の船橋市の課題」について 8
（１）「今後の船橋市の課題」の認知 8
（２）「今後の船橋市の課題」で関心を持ったもの 13

２．「市が見直すべきこと」について 15
（１）船橋市が重点的に取り組む必要があること 15

３．「公共施設のあり方」について 17
（１）公共施設のあり方について利用者としての考え 17
（２）公共施設のあり方について納税者としての考え 19
（３）今後の学校のあり方についての考え 21

４．「民間活力の導入」について 23
（１）民間活力の導入の認知 23
（２）民間活力の導入の賛否 25
（３）民間活力の導入に反対の理由 27

５．「市民サービスの水準と費用負担のあり方」について 29
（１）市民サービスの水準と費用負担の関係についての考え 29

６．「市政への関心」について 31
（１）市政への関心 31
（２）市政に関する情報の入手方法 33
（３）関心のある市民サービスの分野 35

７．自由意見 37
（１）自由意見のまとめ 37
（２）自由意見の抜粋 38

Ⅳ．調査パンフレット及びアンケート調査票 45

Ⅰ．調査概要

１．調査目的

本調査は、行財政改革に対する市民の現状認識や市民サービスに対する意見等を把握することを目的に実施する。

２．調査設計

（１）調査地域　船橋市全域
（２）調査対象　船橋市在住の満 18 歳以上の男女
（３）標 本 数　3,000 人
（４）標本抽出　住民基本台帳から無作為抽出
（５）調査方法　郵送配布－郵送回収（調査期間中に督促を兼ねた「礼状はがき」を１回送付）
（６）調査期間　平成 30 年 11 月 13 日（火）～11 月 29 日（木）
（※調査期間後に郵送回収した調査票は、できる限り調査結果に反映させた）
（７）調査機関　一般社団法人輿論科学協会

３．調査内容

（１）「今後の船橋市の課題」について
（２）「市が見直すべきこと」について
（３）「公共施設のあり方」について
（４）「民間活力の導入」について
（５）「市民サービスの水準と費用負担のあり方」について
（６）「市政への関心」について

４．配布・回収結果

（１）標本数（アンケート調査票配布数）	3,000
（２）回収数	1,264
（３）回収率	42.1％

５．報告書の見方

結果の表示方法

本報告書を見るにあたって、留意すべきこととして以下の事項があげられる。

①比率はすべて百分率で表し、小数点第２位を四捨五入して算出した。したがって、すべての選択肢の比率の合計が 100％にならないことがある。

②ｎは、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数である。各比率はｎを 100％として算出した。

③複数回答の設問では、すべての選択肢の比率の合計は通常 100％を超える。

６．居住地区区分

本調査での船橋市内の地区区分は下表・下図の通りである。

◆地区内該当町丁目

地区	該当町丁目
南部地区	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神
西部地区	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山、旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町、丸山、上山町、馬込西、馬込町、藤原
中部地区	夏見、夏見町、夏見台、米ケ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台、高根台、芝山、新高根
東部地区	前原東、前原西、中野木、二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、三山、田喜野井、習志野、習志野台、西習志野
北部地区	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北、小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井東、坪井西、坪井町

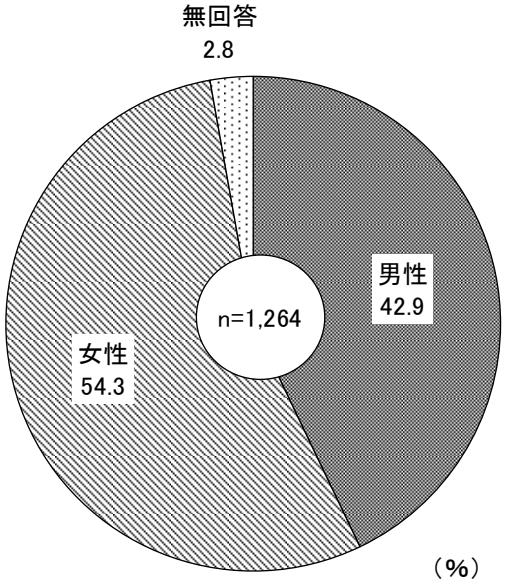
◆居住地区区分図

Ⅱ．調査回答者の属性

１．性別

女性（686 人・54.3%）の方が、男性（542 人・42.9%）より多くなっている。

	基数	構成比
１．男性	542	42.9%
２．女性	686	54.3
（無回答）	36	2.8
合　　計	1,264	100.0



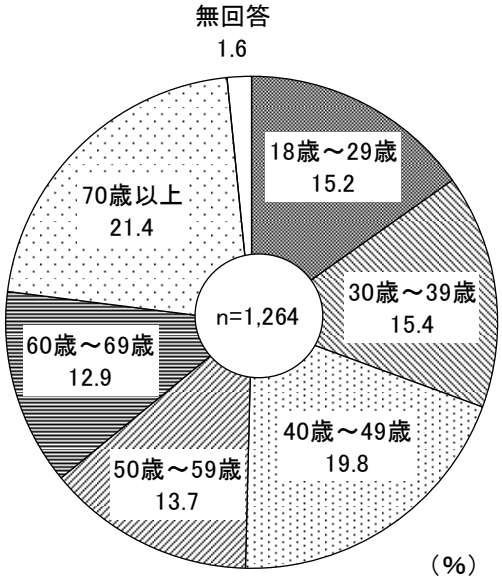
図Ⅱ－１　性別

２．年齢

70 歳以上（271 人・21.4%）が最も多く、次いで、40～49 歳（250 人・19.8%）、30～39 歳（195 人・15.4%）、18～29 歳（192 人・15.2%）の順となっている。

なお、年齢の構成比は、本市の年齢別人口構成比と概ね一致した。

	基数	構成比
１．18～29 歳	192	15.2%
２．30～39 歳	195	15.4
３．40～49 歳	250	19.8
４．50～59 歳	173	13.7
５．60～69 歳	163	12.9
６．70 歳以上	271	21.4
（無回答）	20	1.6
合　　計	1,264	100.0

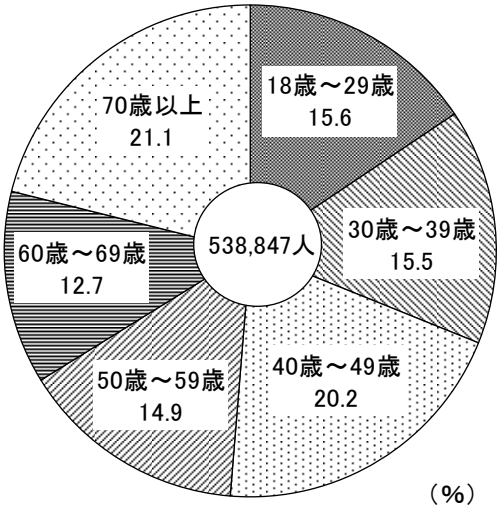


図Ⅱ－２－１　年齢

参考：船橋市の年齢別 18 歳以上人口（平成 30 年 10 月 1 日時点）

	人口	構成比
1．18～29 歳	84,016	15.6%
2．30～39 歳	83,301	15.5
3．40～49 歳	108,930	20.2
4．50～59 歳	80,516	14.9
5．60～69 歳	68,333	12.7
6．70 歳以上	113,751	21.1
合　　計	538,847	100.0

※住民基本台帳人口

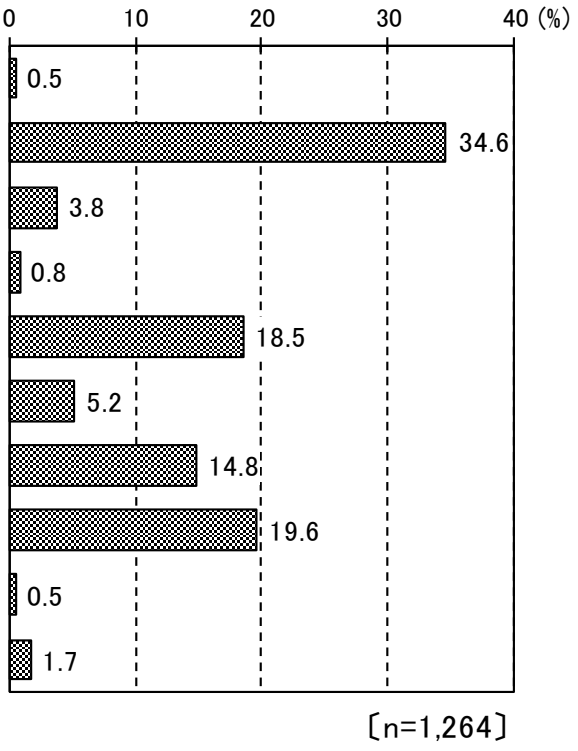


図Ⅱ－２－２　船橋市の年齢別 18 歳以上人口

３．職業

会社員・団体職員・公務員（437 人・34.6%）が最も多く、次いで、無職（年金生活を含む）（248 人・19.6%）、アルバイト・パート・契約（派遣）社員（234 人・18.5%）、専業主婦（主夫）（187 人・14.8%）の順となっている。

	基数	構成比
1．農業・漁業	6	0.5%
2．会社員・団体職員・公務員	437	34.6
3．自営・自由業・経営者	48	3.8
4．家族従業（「1」を除く）※	10	0.8
5．アルバイト・パート・契約（派遣）社員	234	18.5
6．学生	66	5.2
7．専業主婦（主夫）	187	14.8
8．無職（年金生活を含む）	248	19.6
9．その他	6	0.5
（無回答）	22	1.7
合　　計	1,264	100.0



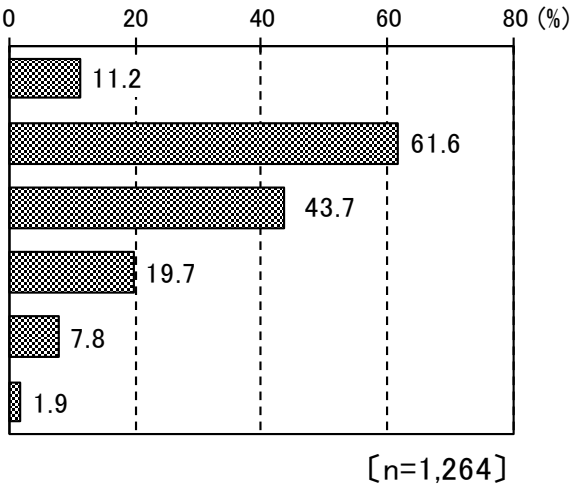
※「家族従業」とは、個人事業主の家族で、その事業を手伝っている者。

図Ⅱ－３　職業

４．同居家族（複数回答）

配偶者（778 人・61.6%）が最も多く、次いで、子（552 人・43.7%）、自分や配偶者の親（249 人・19.7%）、いない（単身者）（142 人・11.2%）の順となっている。

	基数	構成比
１．いない（単身者）	142	11.2%
２．配偶者	778	61.6
３．子	552	43.7
４．自分や配偶者の親	249	19.7
５．その他	98	7.8
（無回答）	24	1.9
全　　体	1,264	100.0

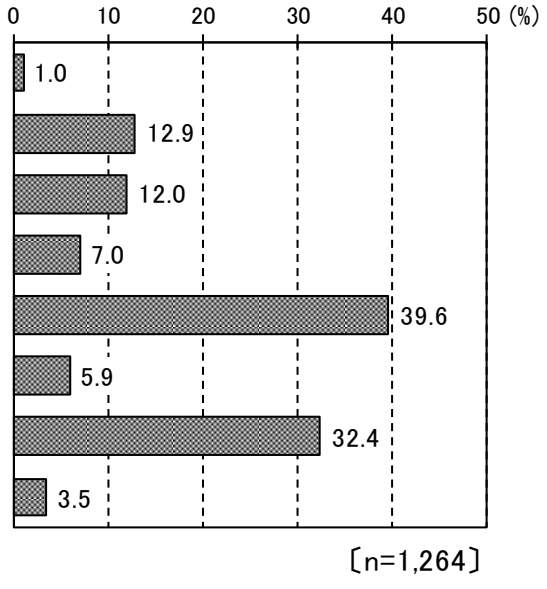


図Ⅱ－４　同居家族

５．同居家族の属性（複数回答）

65 歳以上の方（500 人・39.6%）が最も多く、次いで、（該当する方は）いない（409 人・32.4%）、未就学児（163 人・12.9%）、小学生（152 人・12.0%）の順となっている。

	基数	構成比
１．妊娠中の方	13	1.0%
２．未就学児	163	12.9
３．小学生	152	12.0
４．中学生	89	7.0
５．65 歳以上の方	500	39.6
６．介護を必要とする方（年齢問わず）	75	5.9
７．（該当する方は）いない	409	32.4
（無回答）	44	3.5
全　　体	1,264	100.0



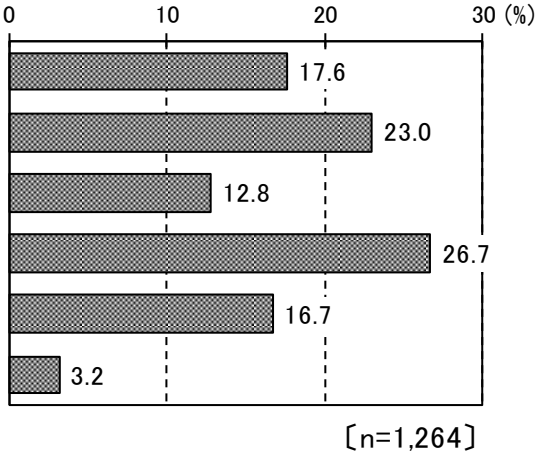
図Ⅱ－５　同居家族の属性

６．居住地区

東部地区（337 人・26.7%）が最も多く、次いで、西部地区（291 人・23.0%）、南部地区（223 人・17.6%）、北部地区（211 人・16.7%）の順となっている。

なお、居住地区の構成比は、本市の居住地区別人口構成比と概ね一致した。

	基数	構成比
１．南部地区	223	17.6%
２．西部地区	291	23.0
３．中部地区	162	12.8
４．東部地区	337	26.7
５．北部地区	211	16.7
（無回答）	40	3.2
合　　計	1,264	100.0

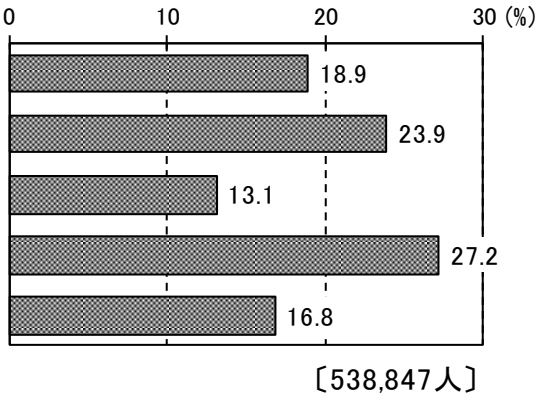


図Ⅱ－６－１　居住地区

参考：船橋市のコミュニティ別 18 歳以上人口（平成 30 年 10 月 1 日時点）

	人口	構成比
１．南部地区	101,827	18.9%
２．西部地区	129,038	23.9
３．中部地区	70,703	13.1
４．東部地区	146,545	27.2
５．北部地区	90,734	16.8
合　　計	538,847	100.0

※住民基本台帳人口

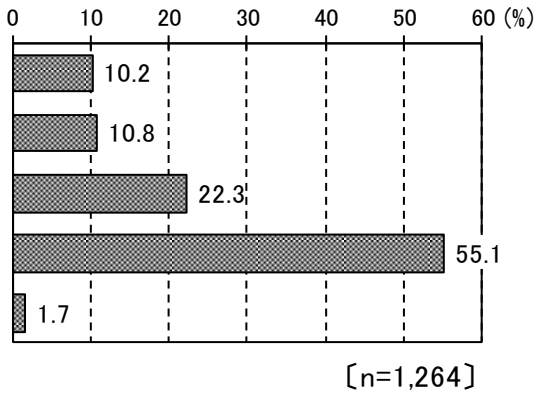


図Ⅱ－６－２　船橋市のコミュニティ別 18 歳以上人口

７．居住年数

20 年以上（696 人・55.1%）が最も多く、次いで、10 年以上 20 年未満（282 人・22.3%）、５年以上 10 年未満（136 人・10.8%）、５年未満（129 人・10.2%）の順となっている。

	基数	構成比
１．５年未満	129	10.2%
２．５年以上 10 年未満	136	10.8
３．10 年以上 20 年未満	282	22.3
４．20 年以上	696	55.1
（無回答）	21	1.7
合　　計	1,264	100.0



図Ⅱ－７　居住年数

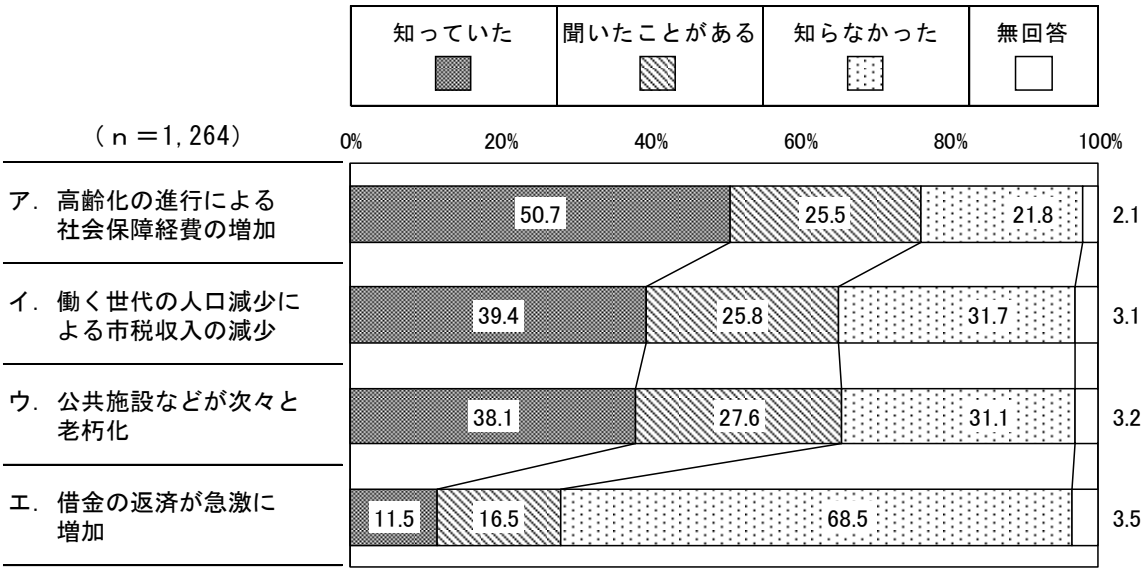
Ⅲ．調査結果の分析

１．「今後の船橋市の課題」について

（１）「今後の船橋市の課題」の認知

問１）あなたは、「今後の船橋市の課題」について知っていましたか。（○はア～エそれぞれに１つだけ）

「今後の船橋市の課題」の認知について、「知っていた」は「高齢化の進行による社会保障経費の増加」が 50.7%で最も高く、次いで「働く世代の人口減少による市税収入の減少」（39.4%）、「公共施設などが次々と老朽化」（38.1%）、「借金の返済が急激に増加」（11.5%）の順となっている。



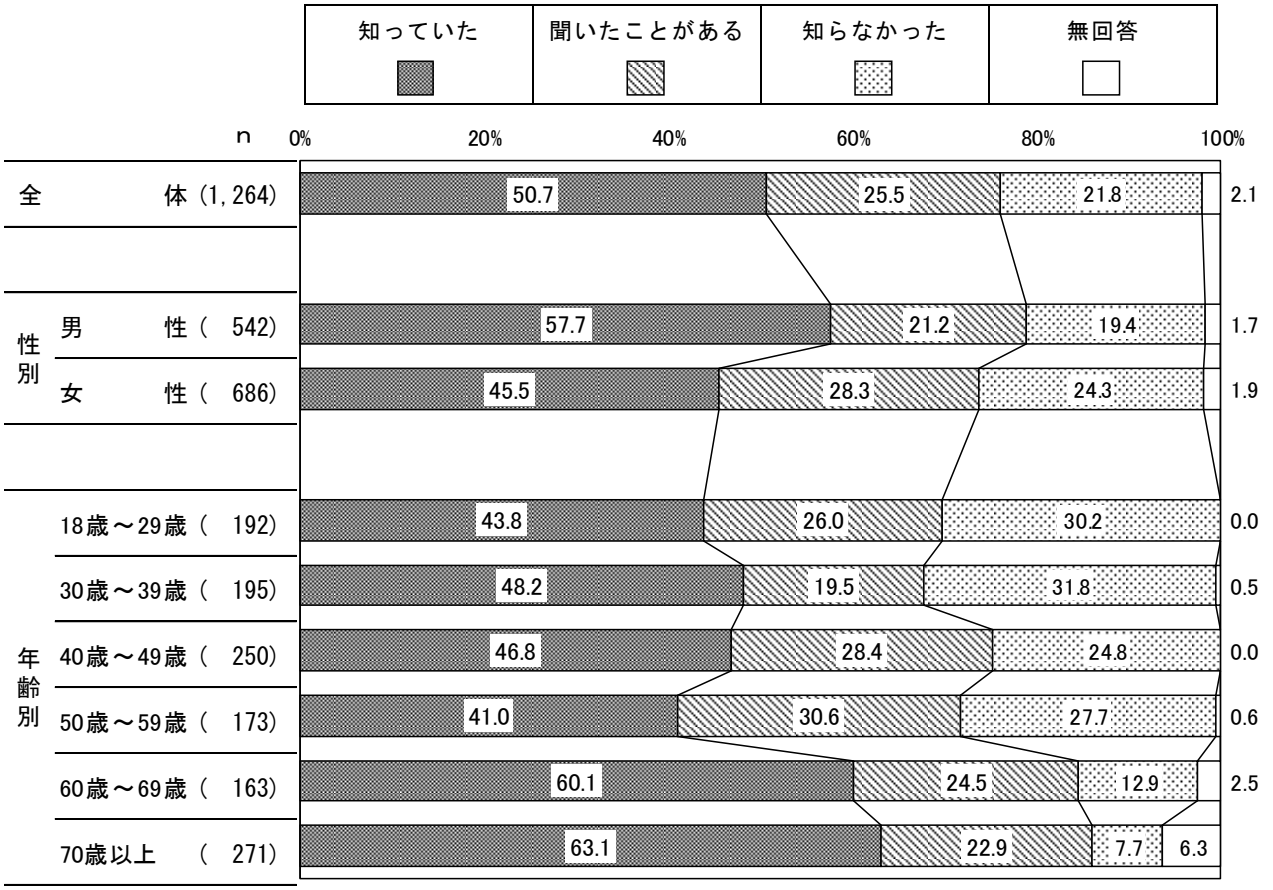
図Ⅲ－１　「今後の船橋市の課題」の認知

「高齢化の進行による社会保障経費の増加」は、約５割の人が“知っていた”と回答し、最も高い。
「借金の返済が急激に増加」は、７割近くの人が“知らなかった”と回答した。

【性別／年齢別】　ア．高齢化の進行による社会保障経費の増加

性別にみると、「知っていた」は男性（57.7%）が女性（45.5%）より 12.2 ポイント高くなっている。また、「聞いたことがある」は女性（28.3%）が男性（21.2%）より 7.1 ポイント、「知らなかった」は女性（24.3%）が男性（19.4%）より 4.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」は 70 歳以上が 63.1%、60 歳～69 歳が 60.1%で高くなっている。一方、「知らなかった」は 30 歳～39 歳が 31.8%、18 歳～29 歳が 30.2%で高くなっている。

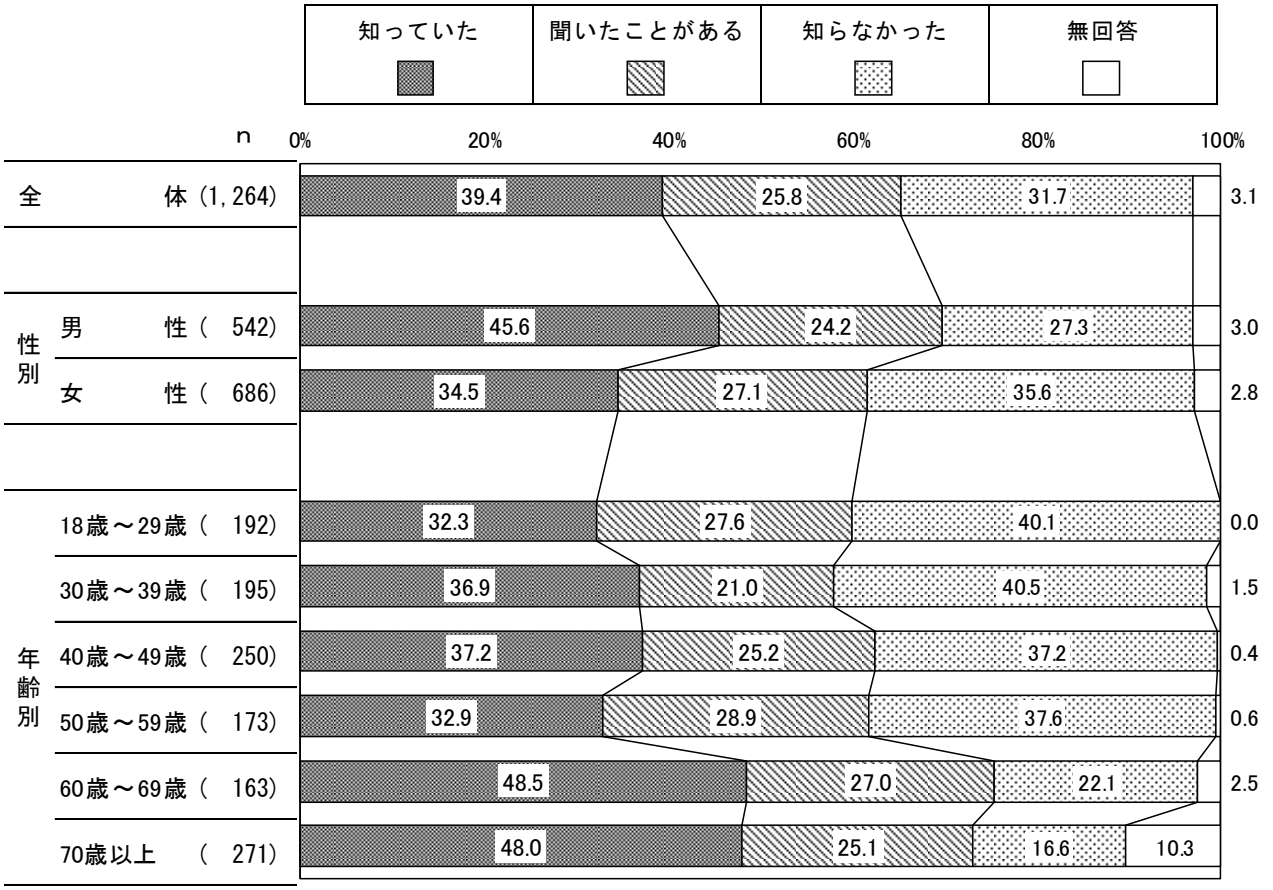


図Ⅲ－２　「今後の船橋市の課題」の認知　ア．高齢化の進行による社会保障経費の増加
（性別／年齢別）

【性別／年齢別】　イ．働く世代の人口減少による市税収入の減少

性別にみると、「知っていた」は男性（45.6%）が女性（34.5%）より 11.1 ポイント高くなっている。一方、「知らなかった」は女性（35.6%）が男性（27.3%）より 8.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」は 60 歳～69 歳が 48.5%、70 歳以上が 48.0%で高くなっている。一方、「知らなかった」は 30 歳～39 歳が 40.5%、18 歳～29 歳が 40.1%で高くなっている。

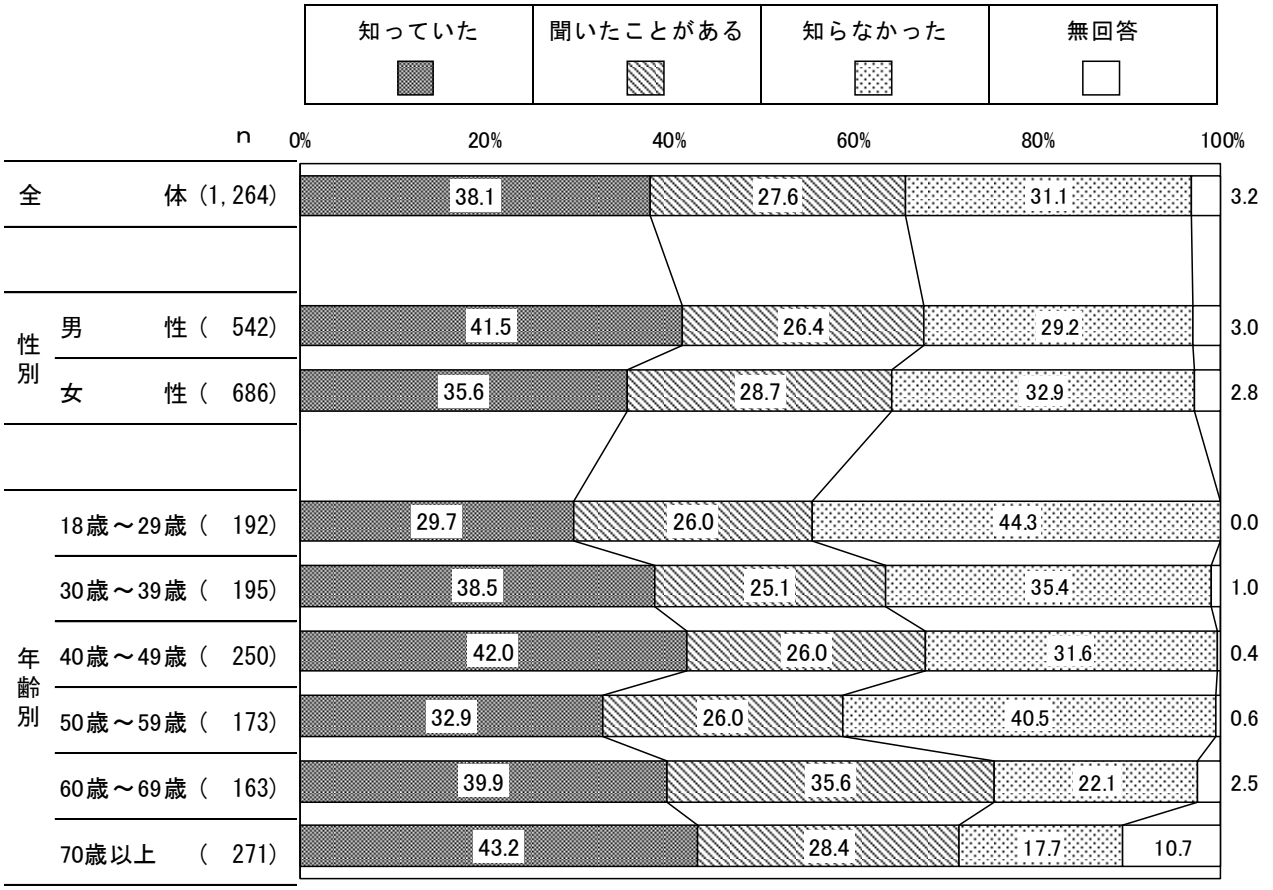


図Ⅲ－３　「今後の船橋市の課題」の認知　イ．働く世代の人口減少による市税収入の減少
（性別／年齢別）

【性別／年齢別】　ウ．公共施設などが次々と老朽化

性別にみると、「知っていた」は男性（41.5%）が女性（35.6%）より 5.9 ポイント高くなっている。一方、「知らなかった」は女性（32.9%）が男性（29.2%）より 3.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」と「聞いたことがある」を合わせた割合は 60 歳～69 歳が 75.5%、70 歳以上が 71.6%で高くなっている。一方、「知らなかった」は 18 歳～29 歳が 44.3%、50 歳～59 歳が 40.5%で高くなっている。

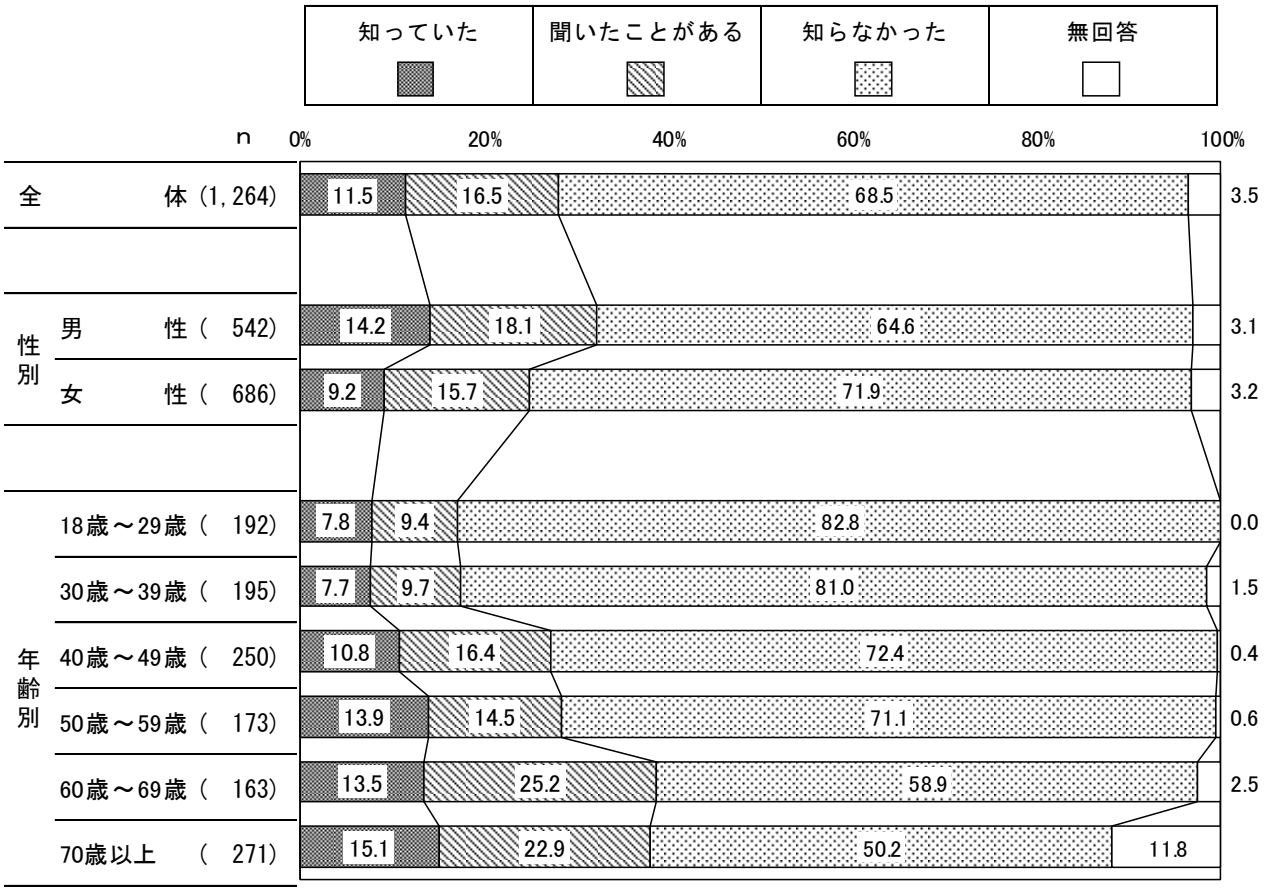


図Ⅲ－４　「今後の船橋市の課題」の認知　ウ．公共施設などが次々と老朽化
（性別／年齢別）

【性別／年齢別】　エ．借金の返済が急激に増加

性別にみると、「知っていた」と「聞いたことがある」を合わせた割合は男性(32.3%)が女性(24.9%)より 7.4 ポイント高くなっている。一方、「知らなかった」は女性（71.9%）が男性（64.6%）より 7.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」と「聞いたことがある」を合わせた割合は 60 歳～69 歳が 38.7%、70 歳以上が 38.0%で高くなっている。一方、「知らなかった」は 18 歳～29 歳が 82.8%、30 歳～39 歳が 81.0%で高くなっている。

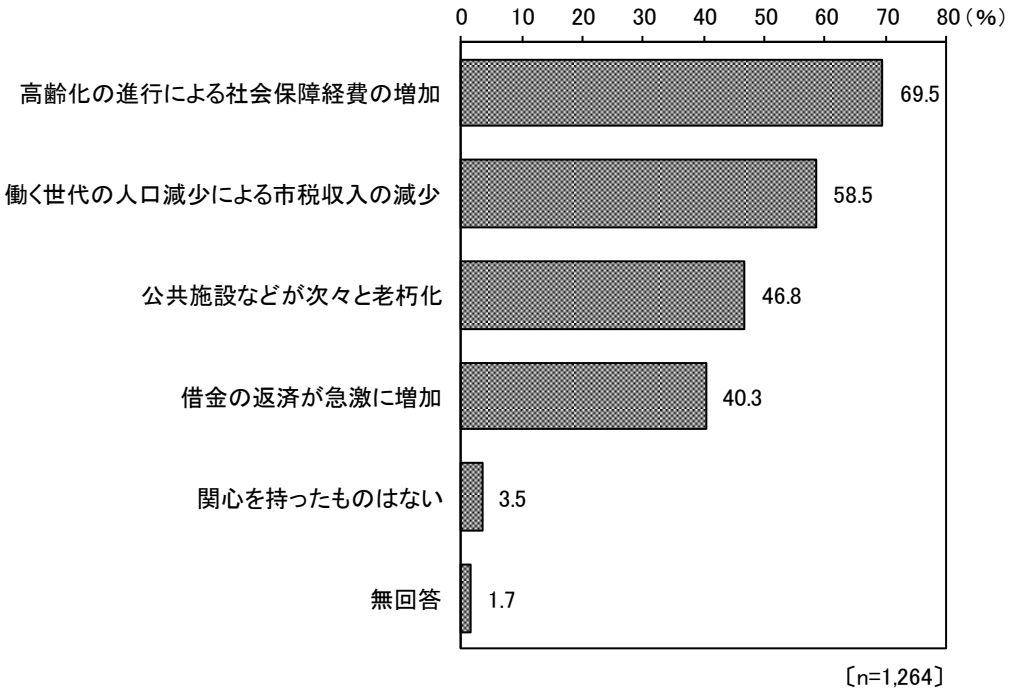


図Ⅲ－５　「今後の船橋市の課題」の認知　エ．借金の返済が急激に増加
（性別／年齢別）

（２）「今後の船橋市の課題」で関心を持ったもの

問２）「今後の船橋市の課題」について、あなたが関心をお持ちになったものは、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

「今後の船橋市の課題」で関心を持ったものを聞いたところ、「高齢化の進行による社会保障経費の増加」が 69.5％で最も高く、次いで「働く世代の人口減少による市税収入の減少」（58.5％）、「公共施設などが次々と老朽化」（46.8％）、「借金の返済が急激に増加」（40.3％）の順となっている。



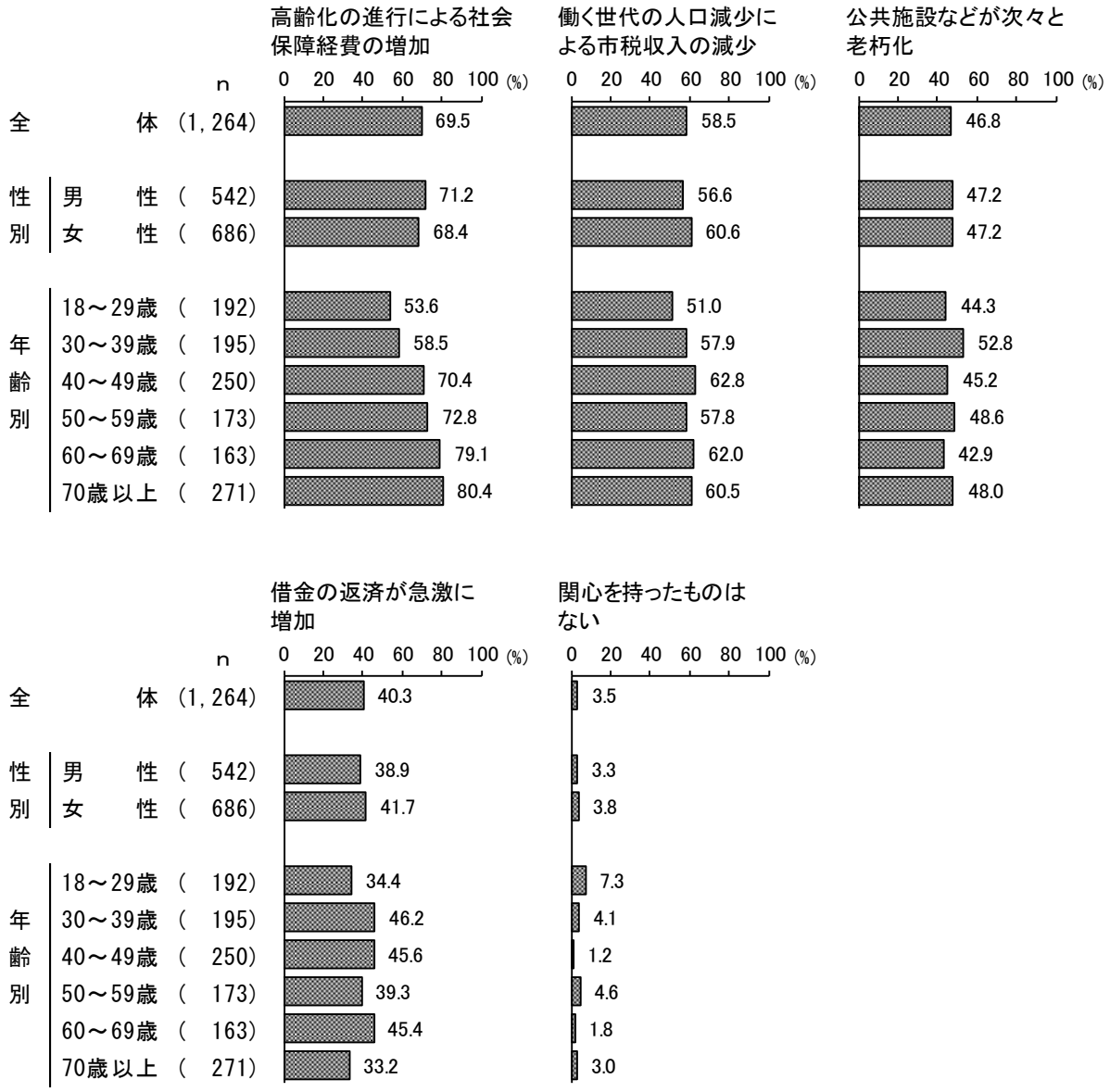
図Ⅲ－６　「今後の船橋市の課題」で関心を持ったもの

「高齢化の進行による社会保障経費の増加」が約７割で最も高い。

【性別／年齢別】

性別にみると、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、「高齢化の進行による社会保障経費の増加」は 70 歳以上が 80.4%、60 歳～69 歳が 79.1%で高くなっている。



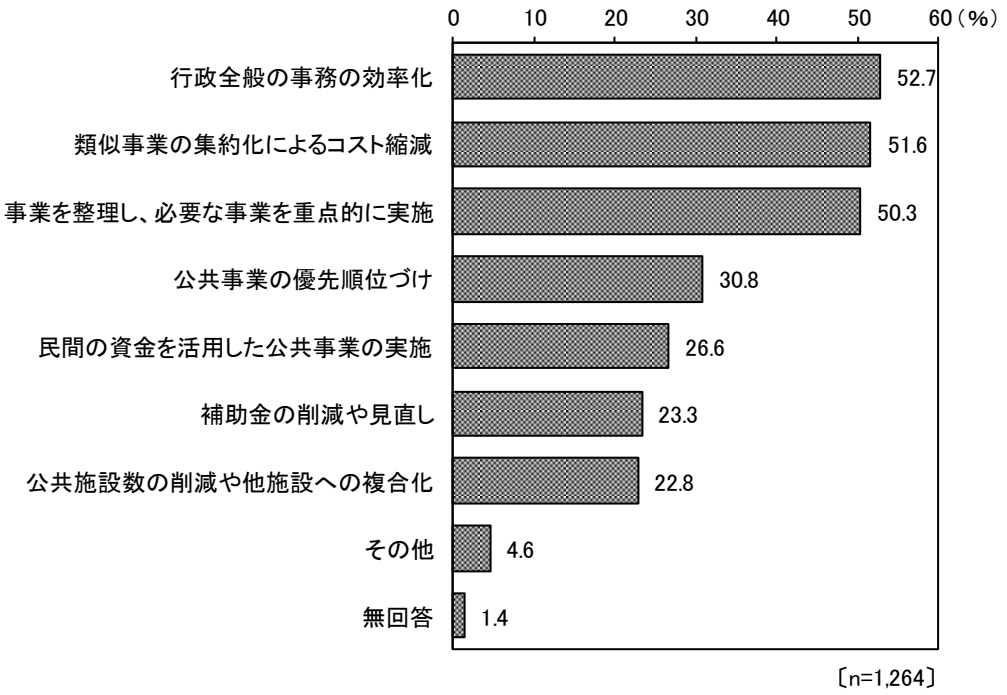
図Ⅲ－７　「今後の船橋市の課題」で関心を持ったもの（性別／年齢別）

2.「市が見直すべきこと」について

（1）船橋市が重点的に取り組む必要があること

問３）船橋市が支出を節減・抑制する上で、あなたが重点的に取り組む必要があると思うものは、次のうちどれですか。（○は３つまで）

船橋市が支出を節減・抑制する上で重点的に取り組む必要があることを聞いたところ、「行政全般の事務の効率化」が 52.7%で最も高く、次いで「類似事業の集約化によるコスト縮減」(51.6%)、「事業を整理し、必要な事業を重点的に実施」(50.3%)、「公共事業の優先順位づけ」(30.8%)、「民間の資金を活用した公共事業の実施」(26.6%) の順となっている。



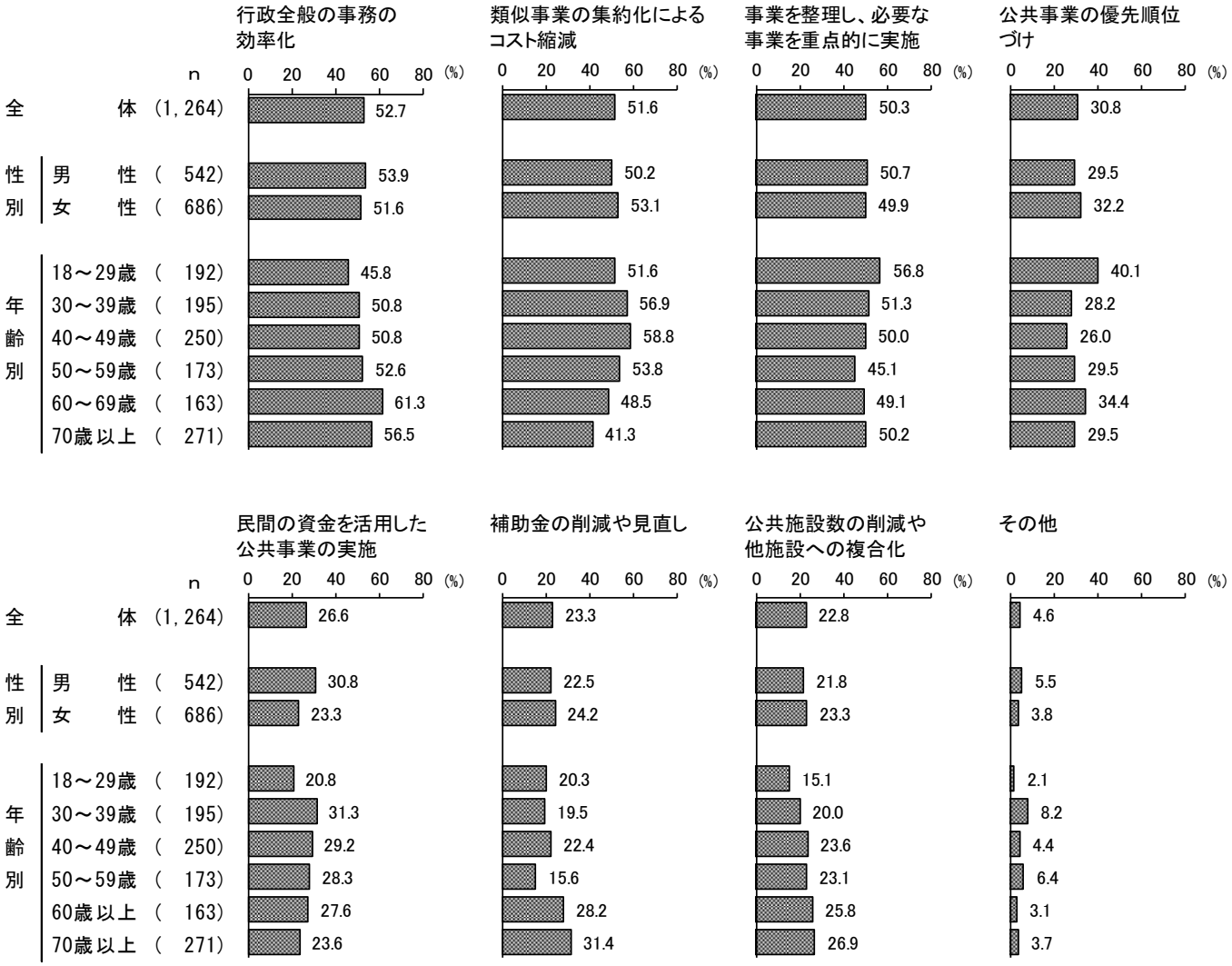
図Ⅲ－８　船橋市が重点的に取り組む必要があること

「行政全般の事務の効率化」、「類似事業の集約化によるコスト縮減」、「事業を整理し、必要な事業を重点的に実施」が５割を超えた。

【性別／年齢別】

性別にみると、「民間の資金を活用した公共事業の実施」は男性（30.8%）が女性（23.3%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「行政全般の事務の効率化」は60歳～69歳が61.3%で高く、「類似事業の集約化によるコスト縮減」は40歳～49歳が58.8%で高くなっている。「公共事業の優先順位づけ」は18歳～29歳が40.1%で高く、「補助金の削減や見直し」は70歳以上が31.4%で高くなっている。



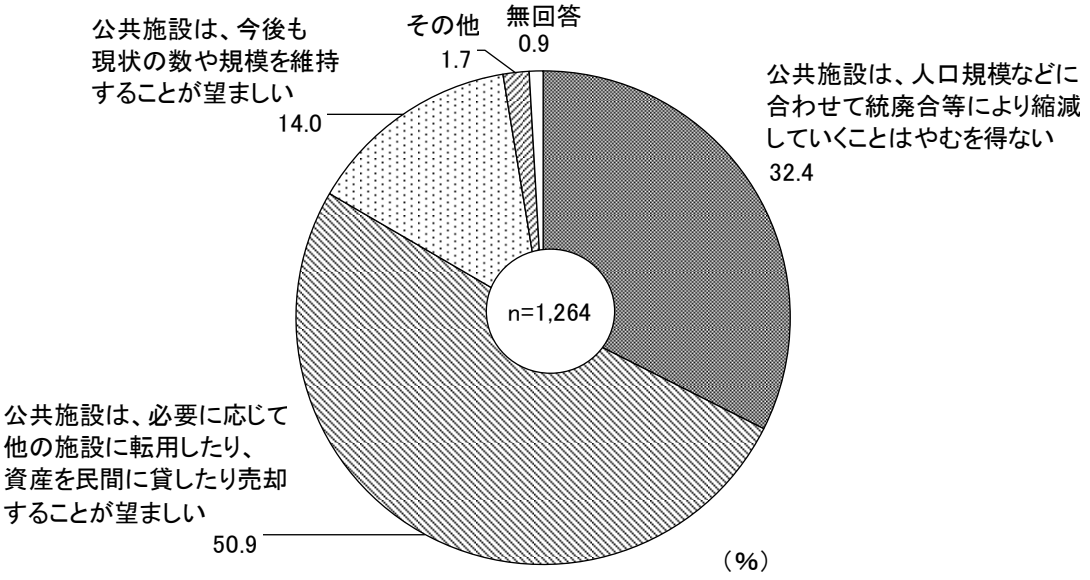
図Ⅲ－９　船橋市が重点的に取り組む必要があること（性別／年齢別）

３.「公共施設のあり方」について

（１）公共施設のあり方について利用者としての考え

問４）船橋市の公共施設の多くは老朽化が進んでおり、今後、多額の維持・更新費用を要することが見込まれます。
　今後の公共施設のあり方について、「利用者」としてのあなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

公共施設のあり方について、利用者としての考えを聞いたところ、「公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい」が 50.9％で最も高く、次いで「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」（32.4％）、「公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい」（14.0％）の順となっている。



図Ⅲ－10　公共施設のあり方について利用者としての考え

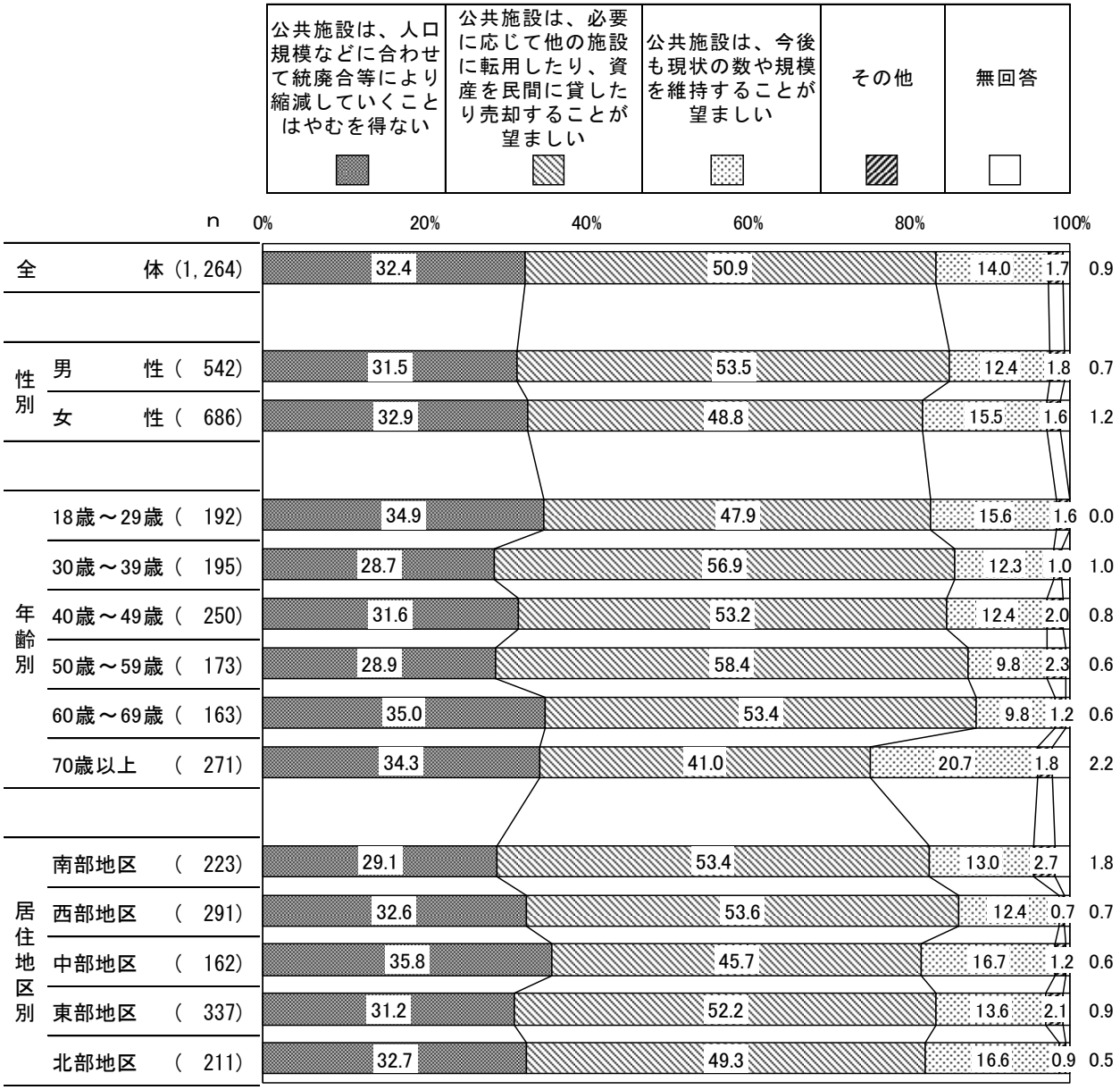
「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」または「公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい」を合わせた割合が約８割を占めた。

【性別／年齢別／居住地区別】

性別にみると、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、「公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい」は 70 歳以上が 20.7%で高くなっている。

居住地区別にみると、大きな差異はみられない。

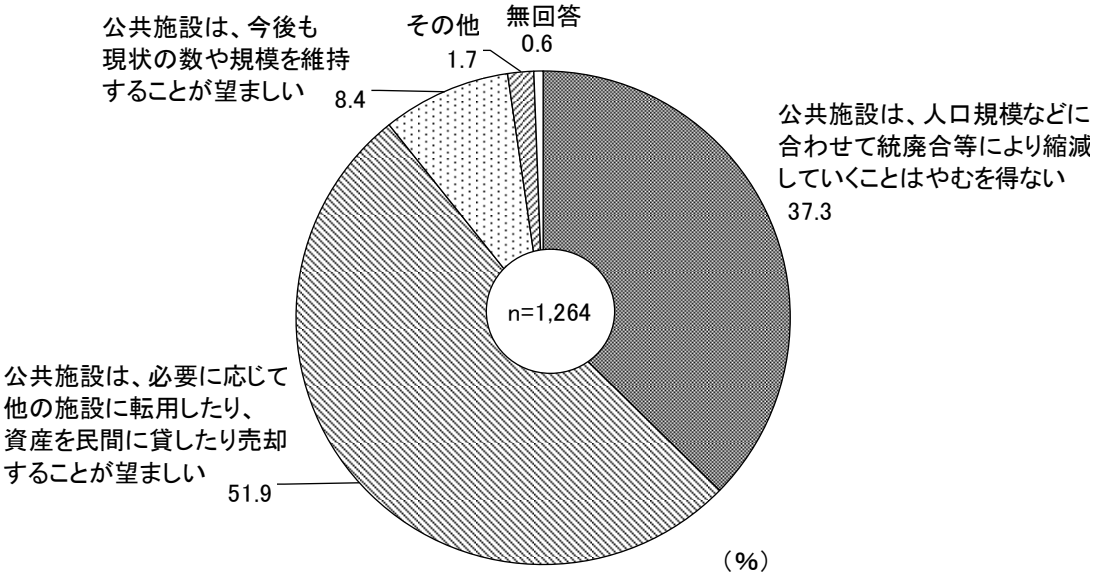


図Ⅲ－11　公共施設のあり方について利用者としての考え（性別／年齢別／居住地区別）

（２）公共施設のあり方について納税者としての考え

問５）公共施設を維持・更新していくためには、皆さまから納めていただいた多くの税金を使う必要があります。
今後の公共施設のあり方について、「納税者」としてのあなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

公共施設のあり方について、納税者としての考えを聞いたところ、「公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい」が 51.9％で最も高く、次いで「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」（37.3％）、「公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい」（8.4％）の順となっている。



図Ⅲ－12　公共施設のあり方について納税者としての考え

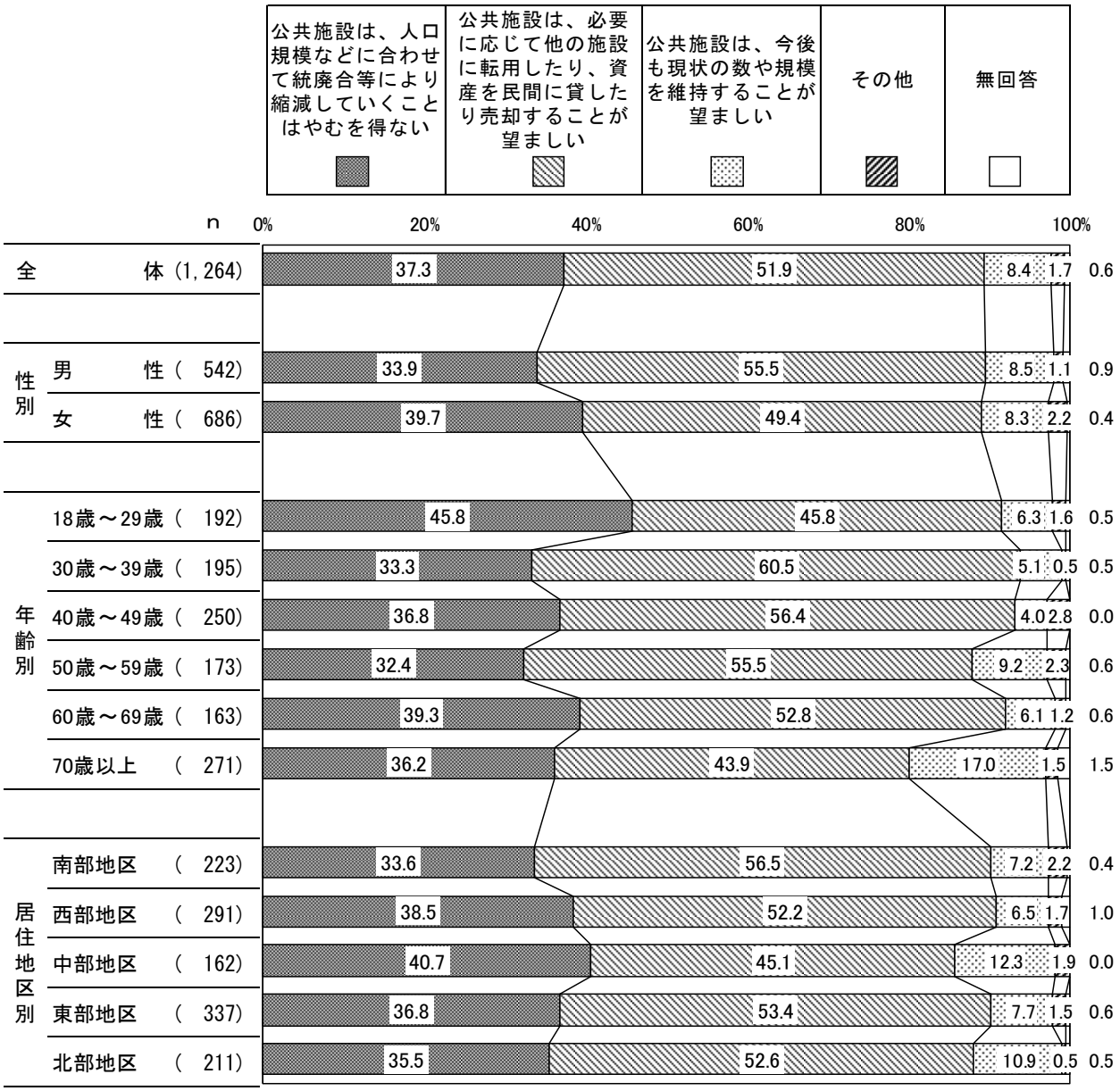
利用者としての立場（問４）から、納税者としての立場（問５）に変わると、「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」は 4.9 ポイント増加した。
「公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい」は 5.6 ポイント減少した。

【性別／年齢別／居住地区別】

性別にみると、「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」は女性（39.7%）が男性（33.9%）より 5.8 ポイント高くなっている。「公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい」は男性（55.5%）が女性（49.4%）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい」は 30 歳～39 歳が 60.5%で高くなっている。「公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない」は 18 歳～29 歳が 45.8%で高くなっている。「公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい」は 70 歳以上が 17.0%で高くなっている。

居住地区別にみると、大きな差異はみられない。

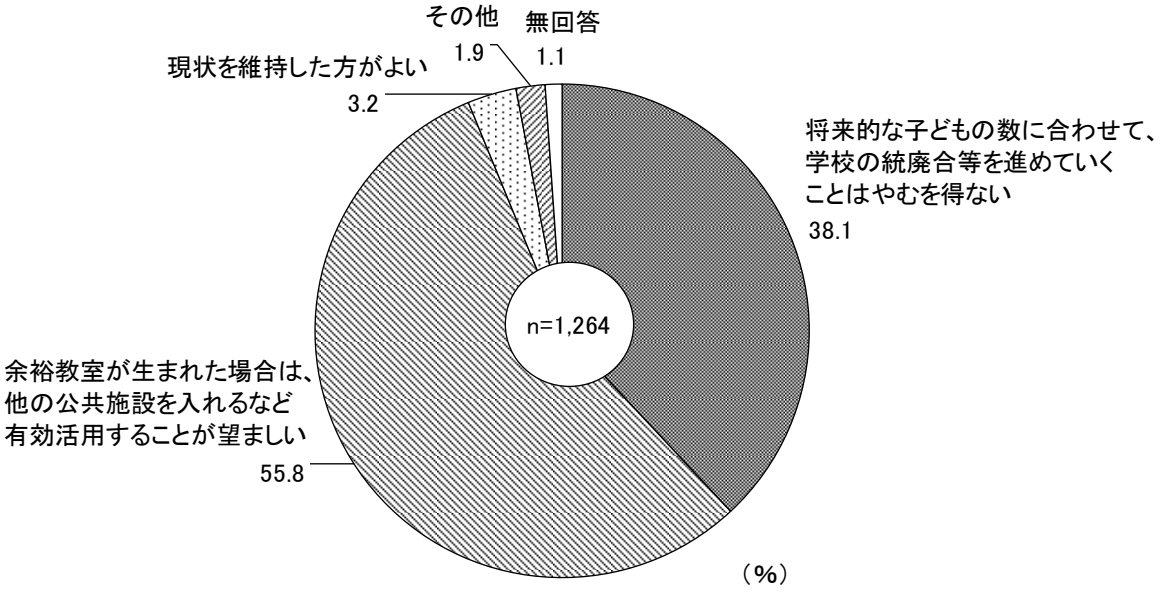


図Ⅲ－13　公共施設のあり方について納税者としての考え（性別／年齢別／居住地区別）

（３）今後の学校のあり方についての考え

問６）船橋市が保有する公共施設のうち、学校は総面積の約５０％を占めていますが、将来的に子どもの数が減少し、教室に余裕が生まれることが見込まれます。
今後の学校のあり方について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。
（○は１つだけ）

今後の学校のあり方についての考えを聞いたところ、「余裕教室が生まれた場合は、他の公共施設を入れるなど有効活用することが望ましい」が 55.8％で最も高く、次いで「将来的な子どもの数に合わせて、学校の統廃合等を進めていくことはやむを得ない」（38.1％）、「現状を維持した方がよい」（3.2％）の順となっている。



図Ⅲ－14　今後の学校のあり方についての考え

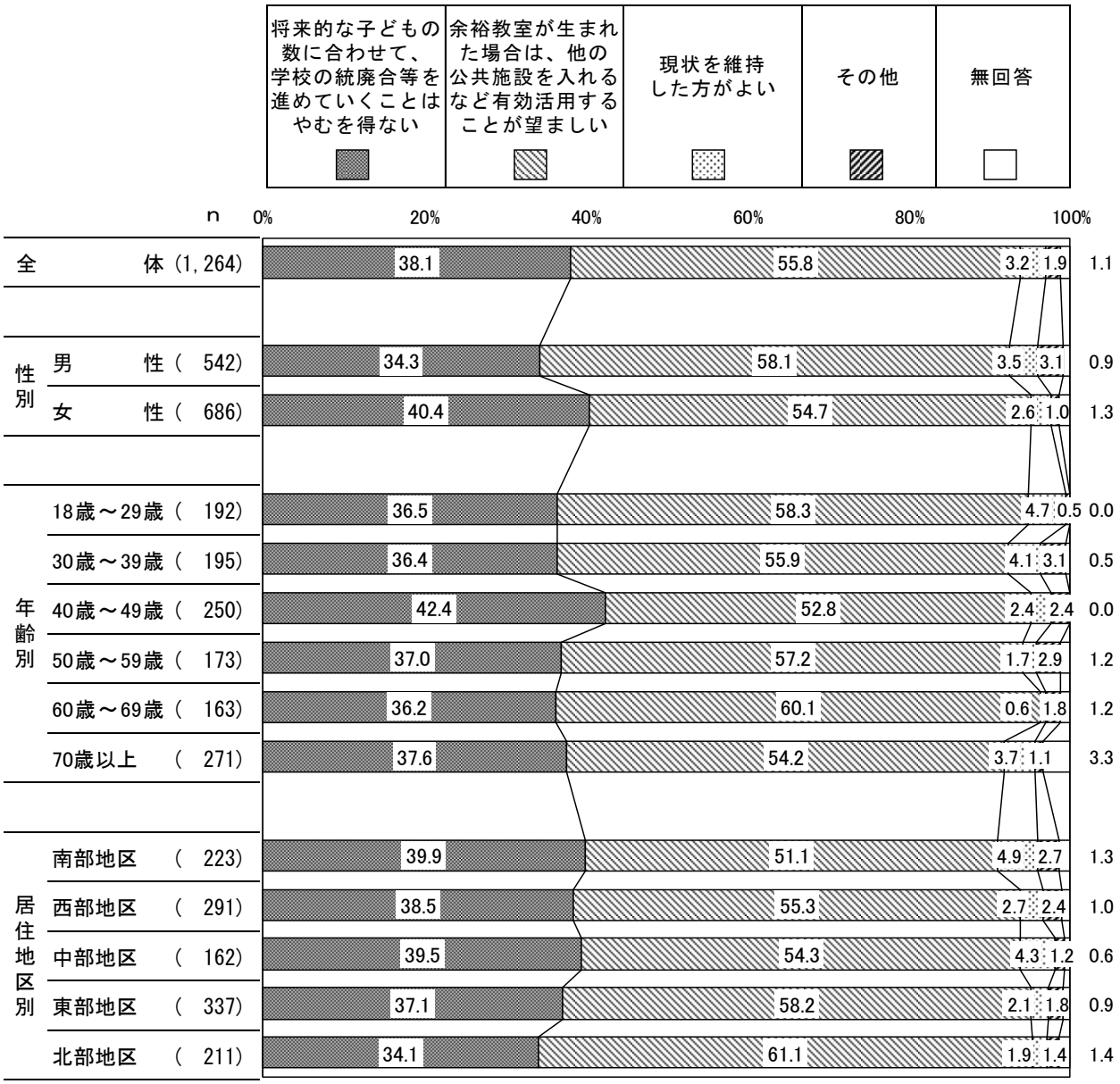
「将来的な子どもの数に合わせて、学校の統廃合等を進めていくことはやむを得ない」または「余裕教室が生まれた場合は、他の公共施設を入れるなど有効活用することが望ましい」を合わせた割合が９割を超えた。

【性別／年齢別／居住地区別】

性別にみると、「将来的な子どもの数に合わせて、学校の統廃合等を進めていくことはやむを得ない」は女性（40.4%）が男性（34.3%）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、大きな差異はみられない。

居住地区別にみると、大きな差異はみられない。



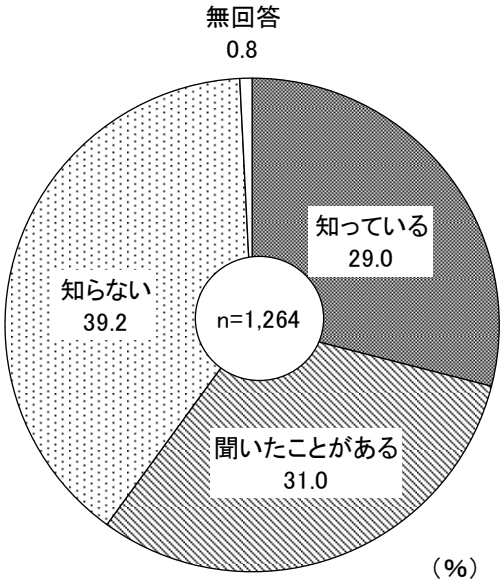
図Ⅲ－15　今後の学校のあり方についての考え（性別／年齢別／居住地区別）

４.「民間活力の導入」について

（１）民間活力の導入の認知

問７）近年、行政機関の窓口業務や公共施設の管理運営などに民間事業者の力を借りる動きが増えています。あなたは、この動きを知っていますか。（○は１つだけ）

民間活力の導入の動きを知っているか聞いたところ、「知っている」（29.0%）と「聞いたことがある」（31.0%）を合わせた割合は60.0%となっている。



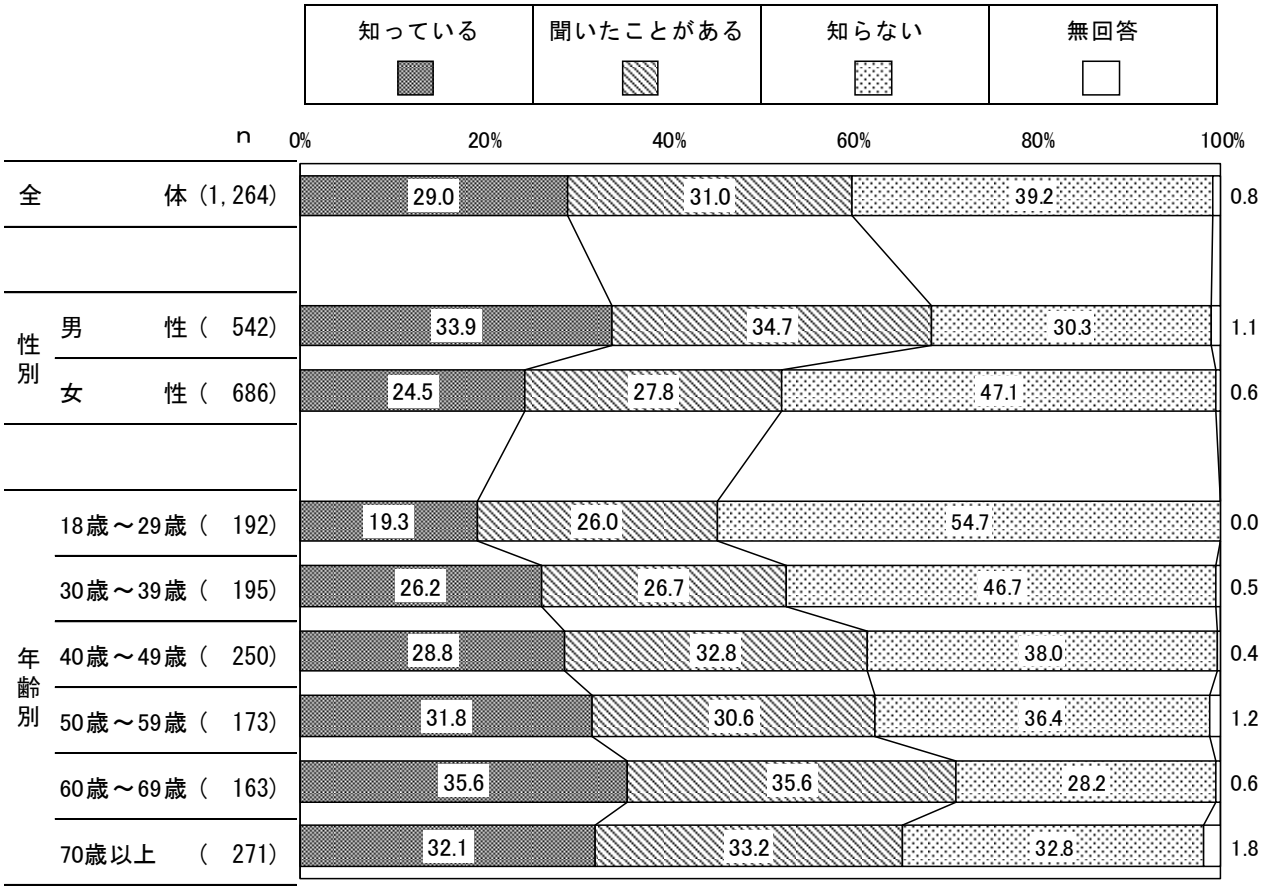
図Ⅲ－16　民間活力の導入の認知

「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた割合が６割を占めた。

【性別／年齢別】

性別にみると、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた割合は男性(68.6%)が女性(52.3%)より 16.3 ポイント高くなっている。「知らない」は女性（47.1%）が男性（30.3%）より 16.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた割合は 60 歳～69 歳が 71.2%で高くなっている。「知らない」は 18 歳～29 歳が 54.7%、30 歳～39 歳が 46.7%で高くなっている。

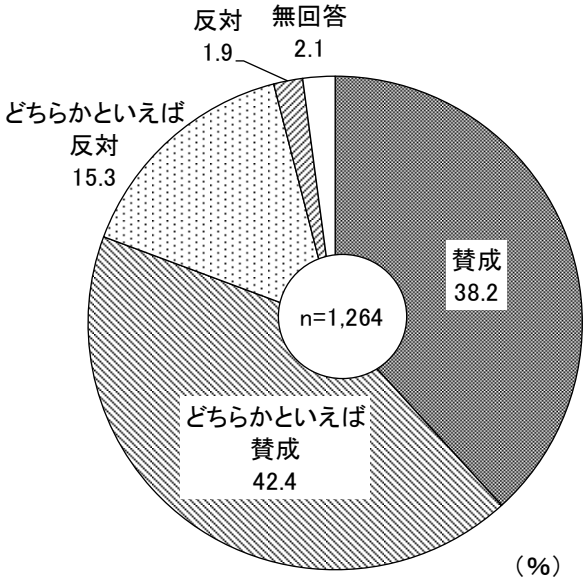


図Ⅲ－17　民間活力の導入の認知（性別／年齢別）

（２）民間活力の導入の賛否

問８）船橋市が、窓口業務や公共施設の管理運営などに民間事業者の力を借りることについて、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

民間活力の導入について賛否を聞いたところ、「賛成」(38.2%)と「どちらかといえば賛成」(42.4%)を合わせた“賛成とした人”の割合は80.6%となっている。一方、「どちらかといえば反対」(15.3%)と「反対」(1.9%)を合わせた“反対とした人”の割合は17.2%となっている。



図Ⅲ－18　民間活力の導入の賛否

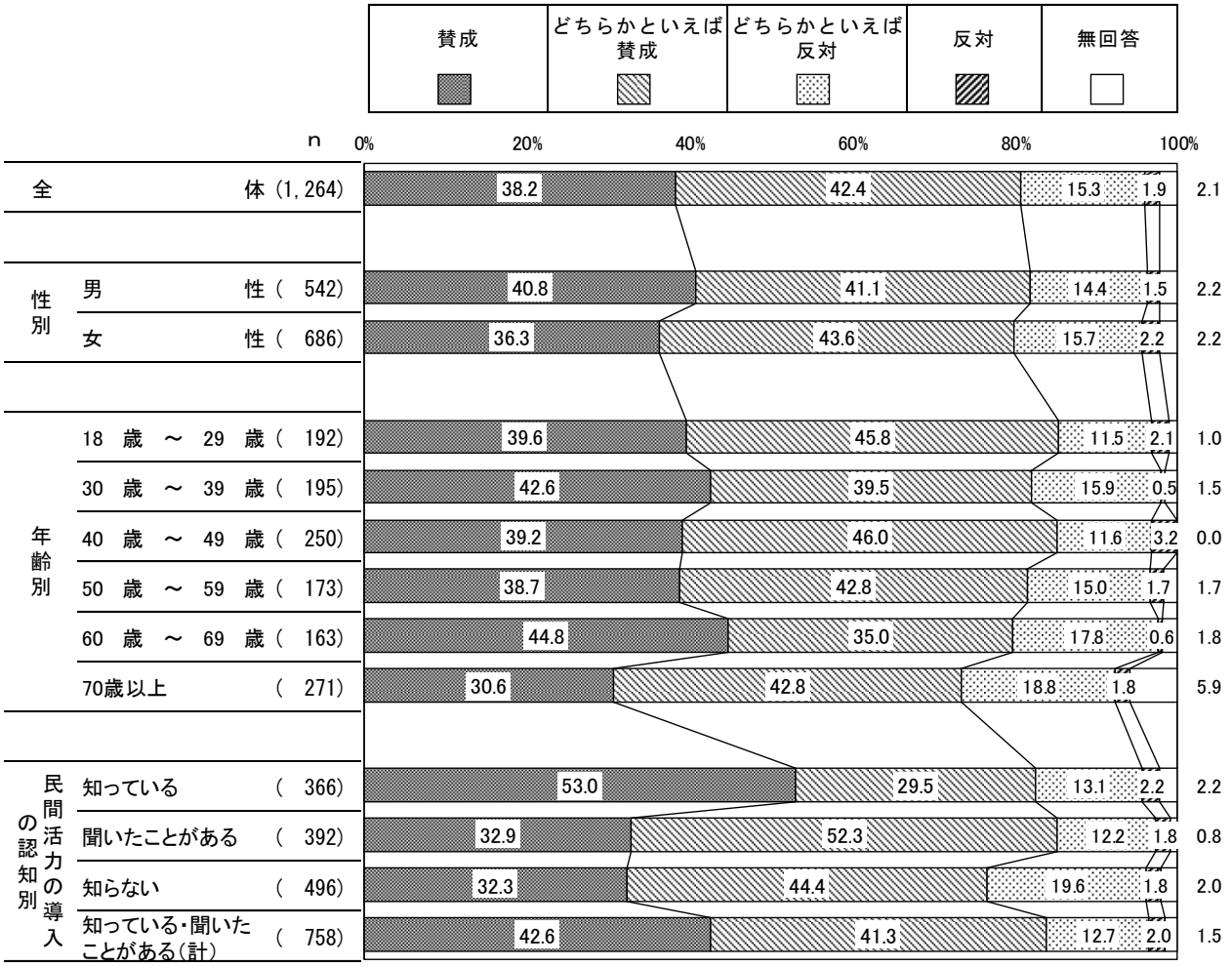
「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が約８割を占めた。

【性別／年齢別／民間活力の導入の認知別】

性別にみると、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成とした人”の割合は 18 歳～29 歳が 85.4%、40 歳～49 歳が 85.2%でやや高く、70 歳以上が 73.4%で低くなっている。

民間活力の導入の認知別にみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成とした人”の割合は「民間活力の導入を知っている・聞いたことがある」と答えた人が 83.9%で高くなっている。一方、「どちらかといえば反対」(15.3%) と「反対」(1.9%) を合わせた“反対とした人”の割合は「民間活力の導入を知らない」と答えた人が 21.4%で高くなっている。

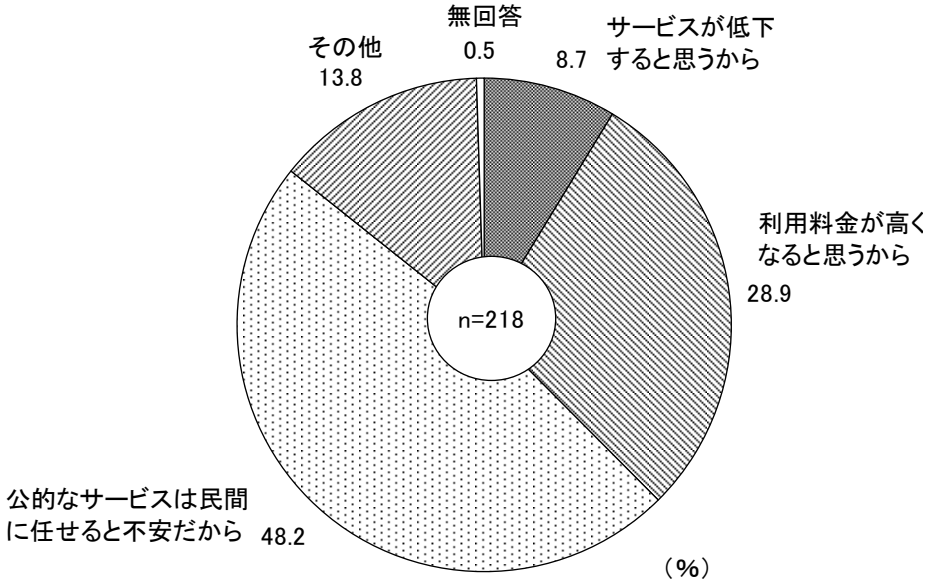


図Ⅲ－19　民間活力の導入の賛否（性別／年齢別／民間活力の導入の認知別）

（３）民間活力の導入に反対の理由

問９）【問８で「３ どちらかといえば反対」または「４ 反対」と回答した方にうかがいます。】
問８で３または４を選択した理由について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

民間活力の導入について「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた人（218 人）に、その理由を聞いたところ、「公的なサービスは民間に任せると不安だから」が 48.2%で最も高く、次いで「利用料金が高くなると思うから」(28.9%)、「サービスが低下すると思うから」(8.7%) の順となっている。



図Ⅲ－20　民間活力の導入に反対の理由

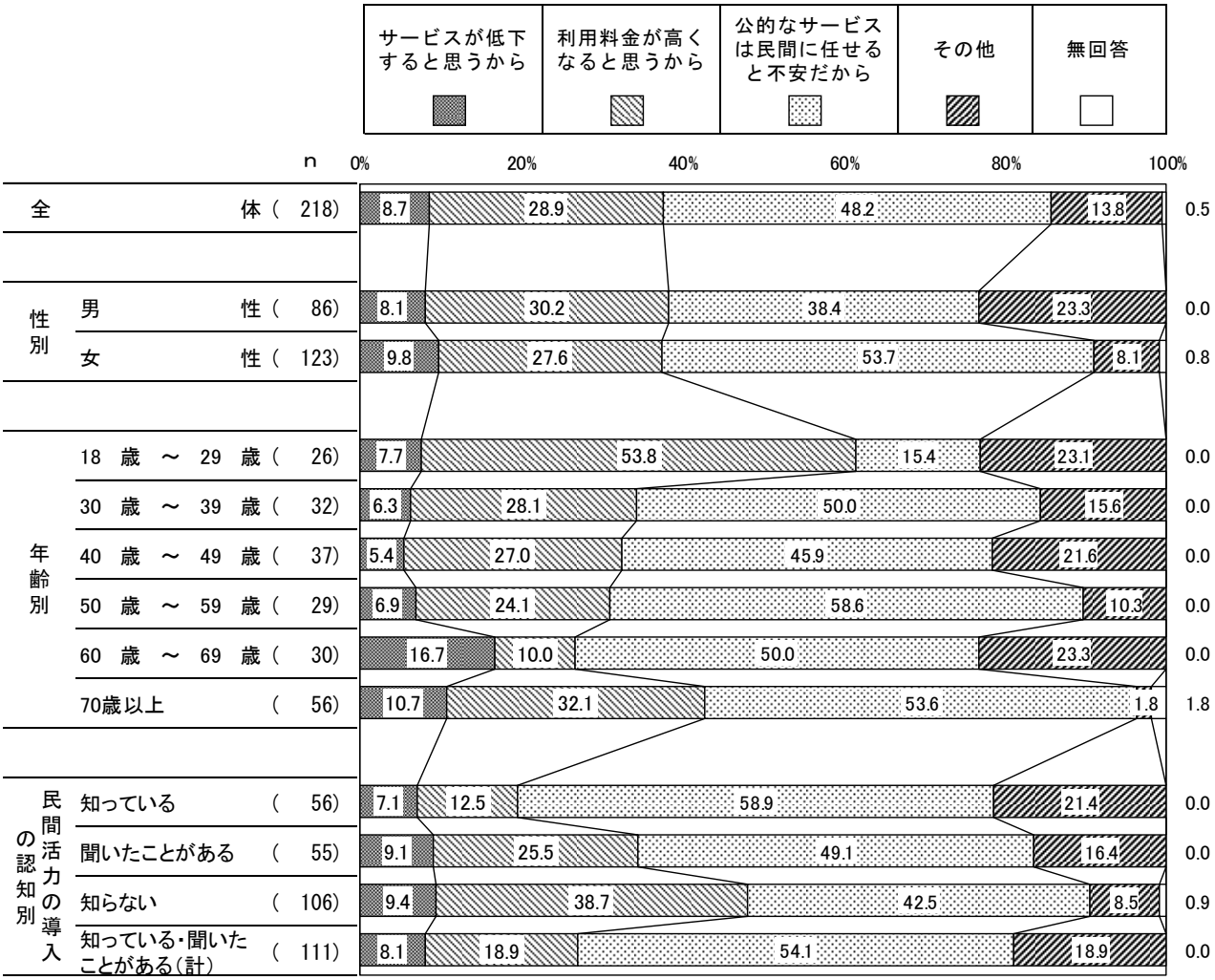
「公的なサービスは民間に任せると不安だから」が約５割を占めた。

【性別／年齢別／民間活力の導入の認知別】

性別にみると、「公的なサービスは民間に任せると不安だから」は女性（53.7%）が男性（38.4%）より 15.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用料金が高くなると思うから」は 18 歳～29 歳が 53.8%で高くなっている。

民間活力の導入の認知別にみると、「利用料金が高くなると思うから」は「民間活力の導入を知らない」と答えた人が 38.7%で高くなっている。



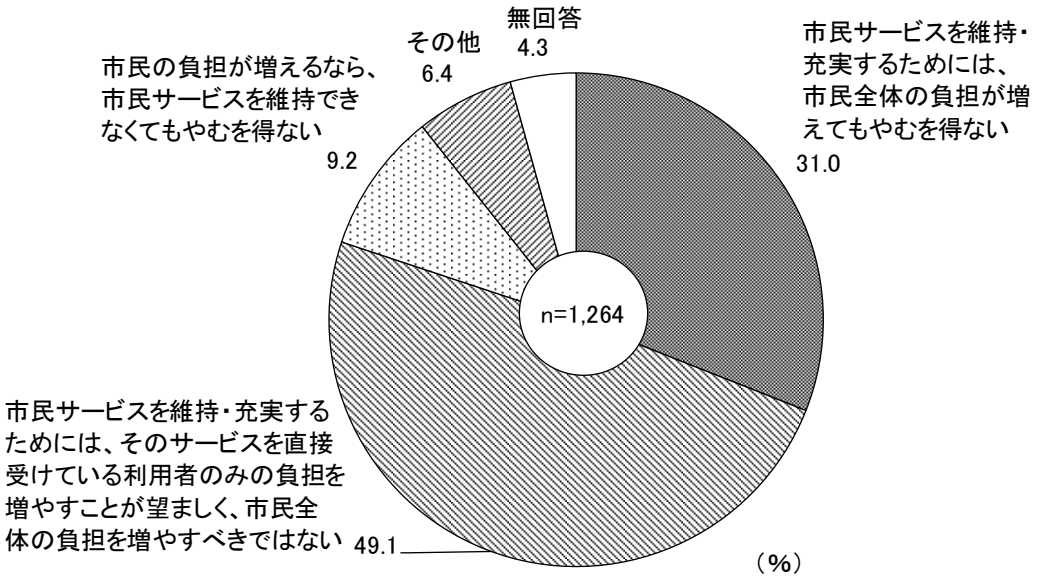
図Ⅲ－21　民間活力の導入に反対の理由（性別／年齢別／民間活力の導入の認知別）

５.「市民サービスの水準と費用負担のあり方」について

（１）市民サービスの水準と費用負担の関係についての考え

問１０）今後の市民サービスの水準と費用負担の関係について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

市民サービスの水準と費用負担についての考えを聞いたところ、「市民サービスを維持・充実するためには、そのサービスを直接受けている利用者のみの負担を増やすことが望ましく、市民全体の負担を増やすべきではない」が 49.1％で最も高く、次いで「市民サービスを維持・充実するためには、市民全体の負担が増えてもやむを得ない」(31.0％)、「市民の負担が増えるなら、市民サービスを維持できなくてもやむを得ない」(9.2％）の順となっている。



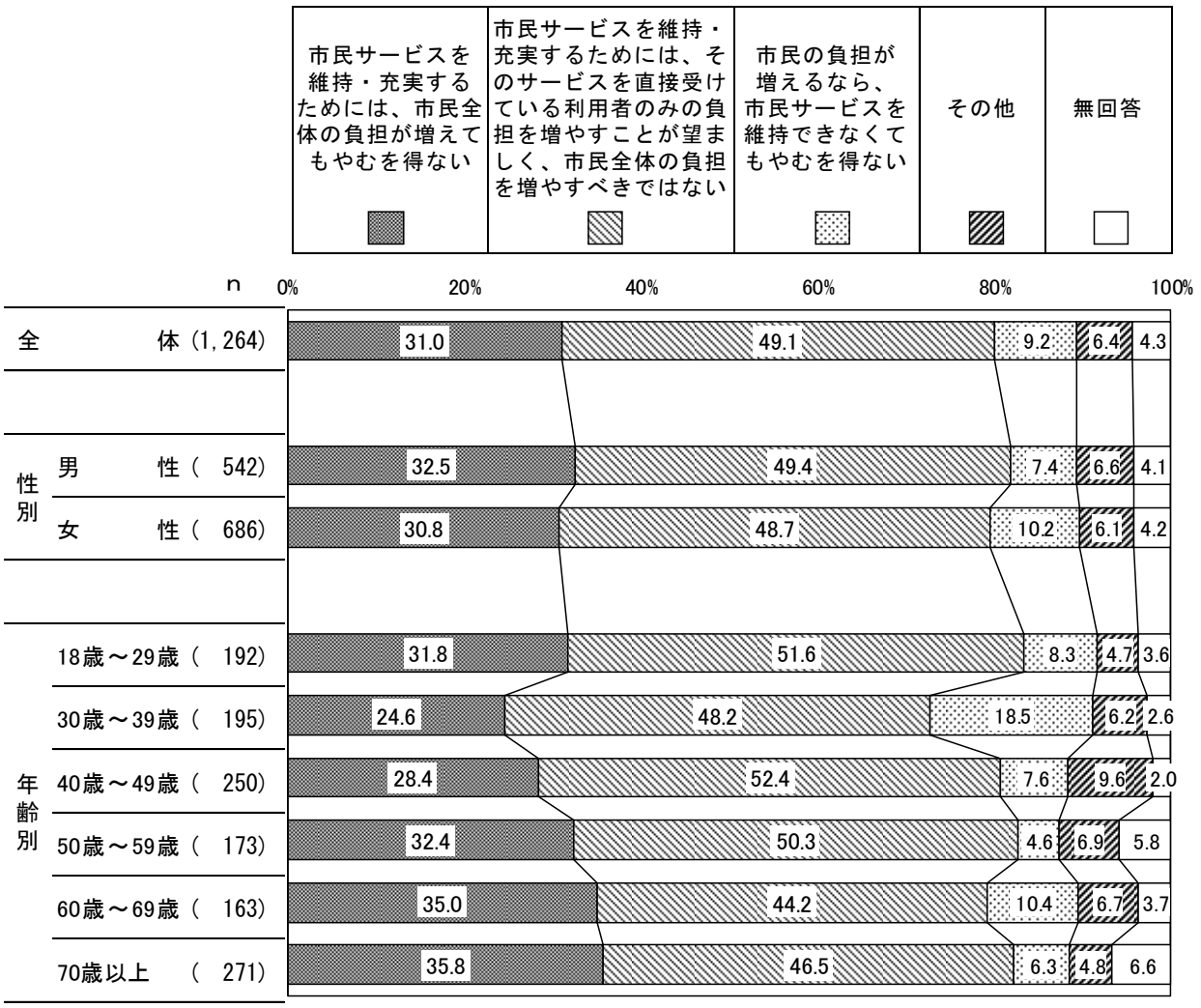
図Ⅲ－22　市民サービスの水準と費用負担についての考え

「市民サービスを維持・充実するためには、そのサービスを直接受けている利用者のみの負担を増やすことが望ましく、市民全体の負担を増やすべきではない」が約５割を占めた。

【性別／年齢別】

性別にみると、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、「市民サービスを維持・充実するためには、市民全体の負担が増えてもやむを得ない」は 70 歳以上が 35.8%でやや高くなっている。「市民の負担が増えるなら、市民サービスを維持できなくてもやむを得ない」は 30 歳～39 歳が 18.5%で高くなっている。



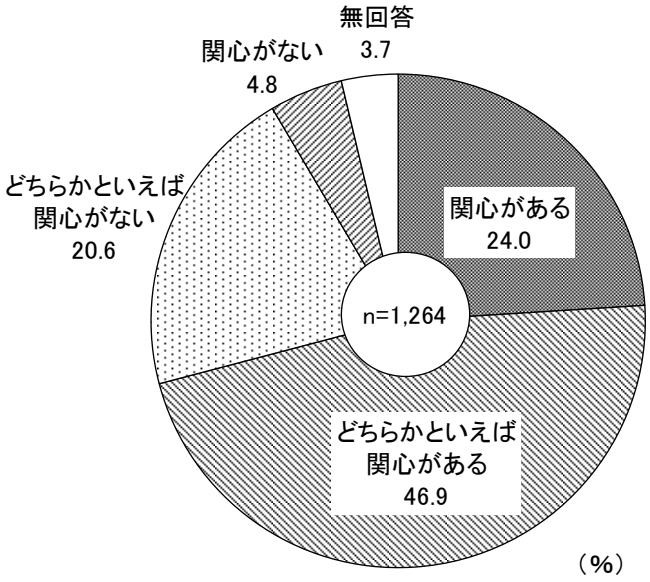
図Ⅲ－23　市民サービスの水準と費用負担についての考え（性別／年齢別）

６.「市政への関心」について

（１）市政への関心

問１８）あなたは、船橋市の市政に関心がありますか。（○は１つだけ）

市政への関心について聞いたところ、「関心がある」（24.0%）と「どちらかといえば関心がある」（46.9%）を合わせた“関心があるとした人”の割合は 70.9%となっている。一方、「どちらかといえば関心がない」（20.6%）と「関心がない」（4.8%）を合わせた“関心がないとした人”の割合は 25.4%となっている。



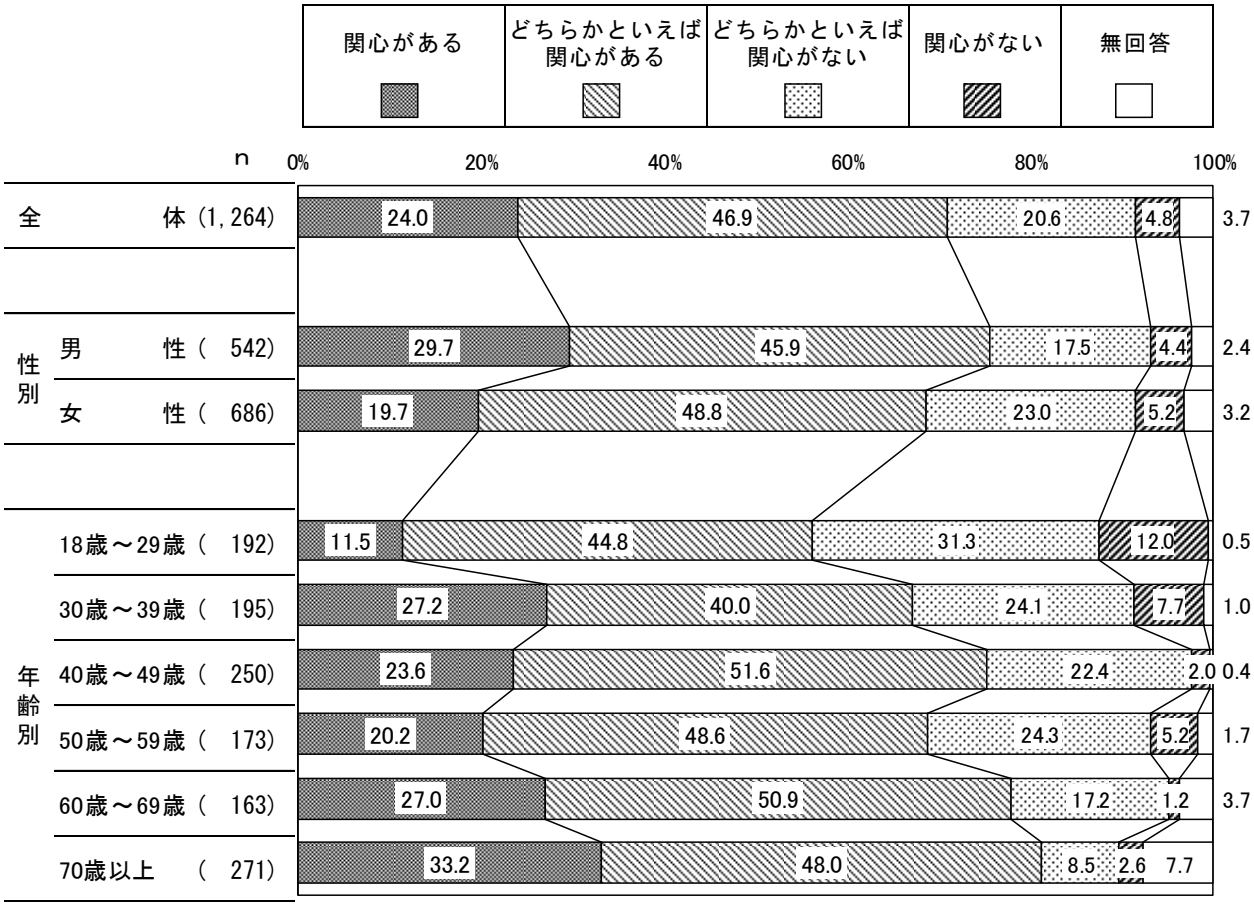
図Ⅲ－24　市政への関心

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が約７割を占めた。

【性別／年齢別】

性別にみると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心があるとした人”の割合は男性（75.6%）が女性（68.5%）より 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心があるとした人”の割合は 70 歳以上が 81.2%、60 歳～69 歳が 77.9%で高くなっている。「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がないとした人”の割合は 18 歳～29 歳が 43.3%、30 歳～39 歳が 31.8%で高くなっている。

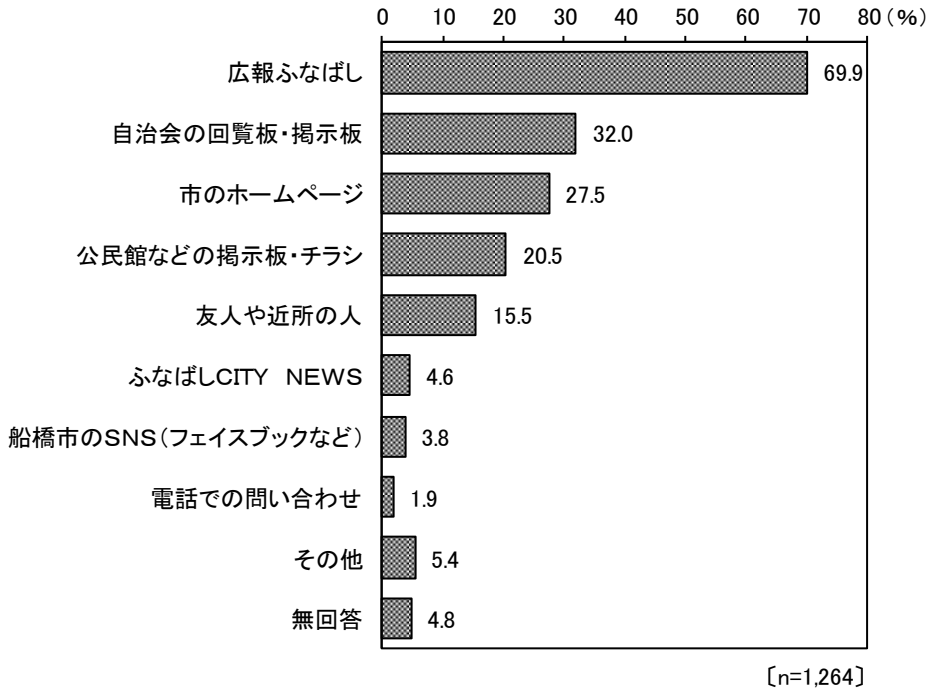


図Ⅲ－25　市政への関心（性別／年齢別）

（２）市政に関する情報の入手方法

問１９）あなたは、船橋市の市政に関する情報をどのように入手していますか。
（○はいくつでも）

市政に関する情報の入手方法を聞いたところ、「広報ふなばし」が 69.9％で最も高く、次いで「自治会の回覧板・掲示板」（32.0％）、「市のホームページ」（27.5％）、「公民館などの掲示板・チラシ」（20.5％）、「友人や近所の人」（15.5％）の順となっている。

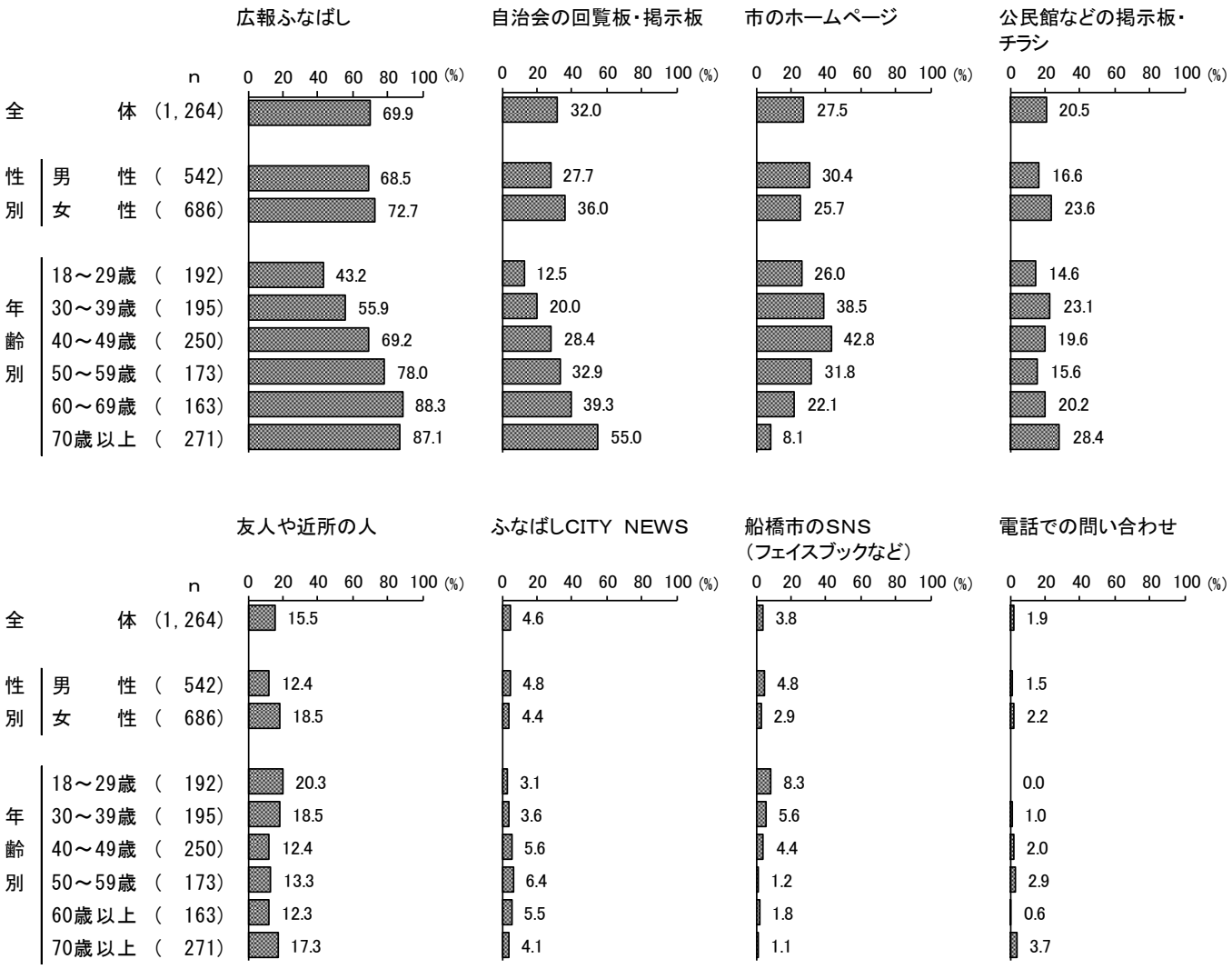


図Ⅲ－26　市政に関する情報の入手方法

【性別／年齢別】

性別にみると、「自治会の回覧板・掲示板」は女性（36.0%）が男性（27.7%）より 8.3 ポイント、「公民館などの掲示板・チラシ」は女性（23.6%）が男性（16.6%）より 7.0 ポイント、「友人や近所の人」は女性（18.5%）が男性（12.4%）より 6.1 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「広報ふなばし」は 60 歳～69 歳が 88.3%、70 歳以上が 87.1%、50 歳～59 歳が 78.0%で高く、「自治会の回覧板・掲示板」は 70 歳以上が 55.0%、60 歳～69 歳が 39.3%で高くなっている。「市のホームページ」は 40 歳～49 歳が 42.8%、30 歳～39 歳が 38.5%で高く、「公民館などの掲示板・チラシ」は 70 歳以上が 28.4%で高くなっている。

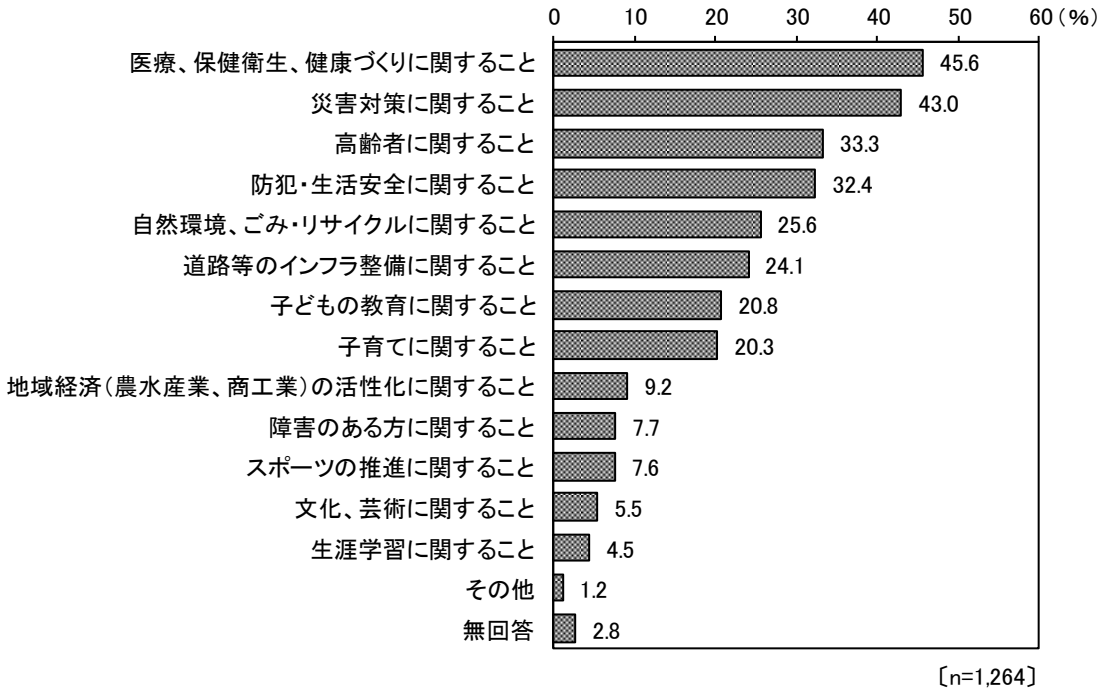


図Ⅲ－27　市政に関する情報の入手方法（性別／年齢別）

（３）関心のある市民サービスの分野

問２０）あなたが、関心のある市民サービスの分野は、次のうちどれですか。（○は３つまで）

関心のある市民サービスの分野を聞いたところ、「医療、保健衛生、健康づくりに関すること」が45.6%で最も高く、次いで「災害対策に関すること」(43.0%)、「高齢者に関すること」(33.3%)、「防犯・生活安全に関すること」(32.4%)、「自然環境、ごみ・リサイクルに関すること」(25.6%)の順となっている。

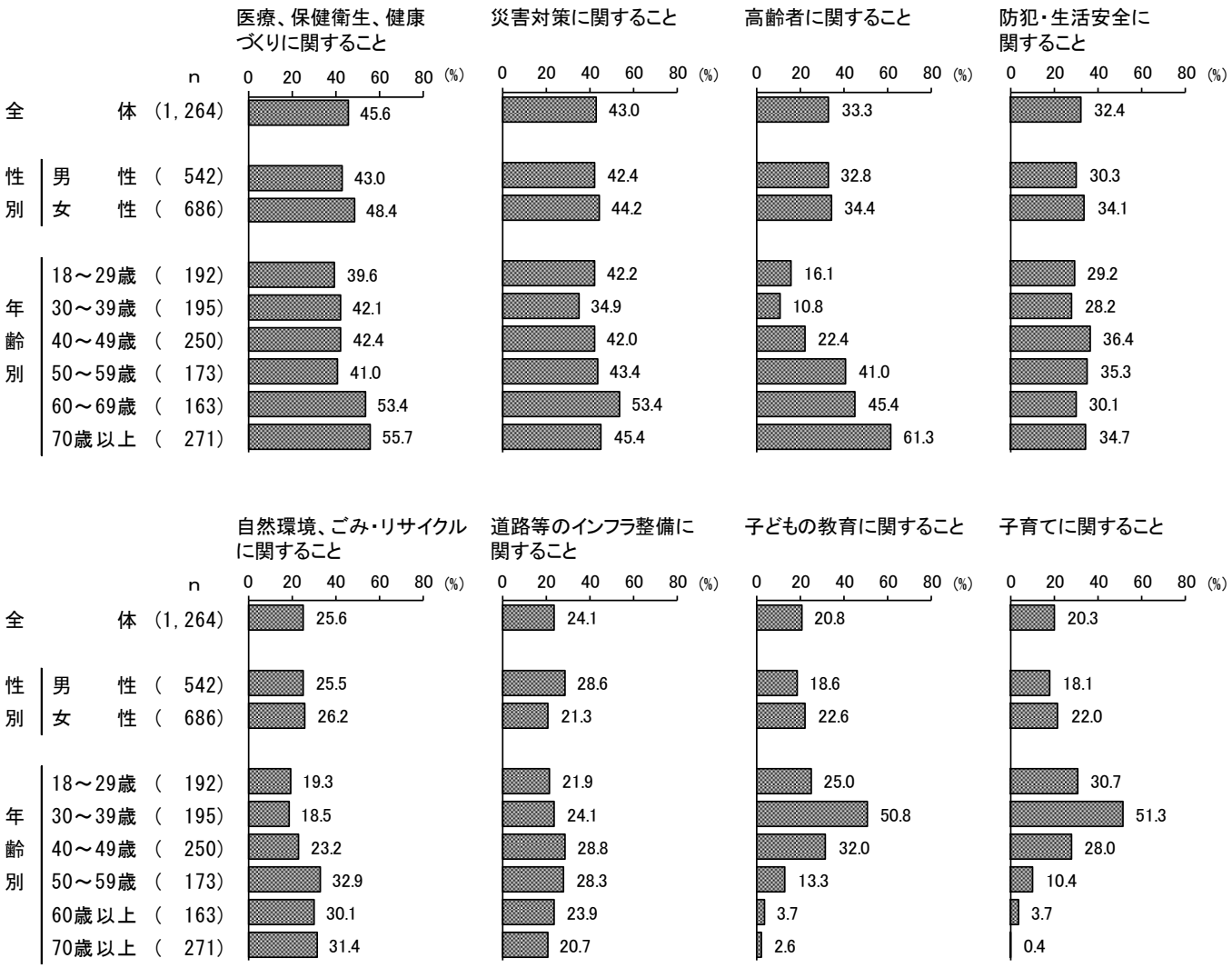


図Ⅲ－28　関心のある市民サービス

【性別／年齢別】（上位８項目）

性別にみると、「道路等のインフラ整備に関すること」は男性（28.6%）が女性（21.3%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「医療、保健衛生、健康づくりに関すること」は70歳以上が55.7%、60歳～69歳が53.4%で高く、「災害対策に関すること」は60歳～69歳が53.4%で高くなっている。「高齢者に関すること」は70歳以上が61.3%、60歳～69歳が45.4%、50歳～59歳が41.0%で高く、「自然環境、ごみ・リサイクルに関すること」は50歳～59歳が32.9%、70歳以上が31.4%で高くなっている。「子どもの教育に関すること」は30歳～39歳が50.8%、40歳～49歳が32.0%で高く、「子育てに関すること」は30歳～39歳が51.3%、18歳～29歳が30.7%、40歳～49歳が28.0%で高くなっている。



図Ⅲ－29　関心のある市民サービス（性別／年齢別）

7．自由意見

（1）自由意見のまとめ

自由意見は 456 人から回答があった。回答内容を分野別に分類してまとめた結果は以下のとおりである。ひとりの回答者が複数の分野にわたる意見を記入している場合は、それぞれの分野で１件として数えて集計した。分類の結果、意見数は 645 件となった。

表Ⅲ－１　自由意見のまとめ

分野	件数	構成比
インフラ（道路など）	82	12.7%
財政・政策	56	8.7
子育て・教育	52	8.1
高齢者・障害者・地域福祉	45	7.0
人件費・職員配置	40	6.2
まちづくり	34	5.3
ごみ・リサイクル	34	5.3
情報発信	33	5.1
公共施設	27	4.2
病院・医療	22	3.4
民間活力	21	3.3
アンケート関連	21	3.3
安心・安全	20	3.1
税金	19	2.9
業務改善	18	2.8
窓口対応	17	2.6
受益者負担	15	2.3
外国人対応	12	1.9
交通機関	9	1.4
たばこ	6	0.9
選挙、投票	5	0.8
その他	57	8.8
合計	645	100.0

（２）自由意見の抜粋

自由意見の回答内容を分類した項目ごとに、主な意見を抜粋して示す。

【インフラ（道路など）】

- 船橋の道幅が狭い。そこに自動車、自転車、歩行者が行き交うので高齢者は危なくて歩いてはいけない。道路の整備して下さい。（女性・60 歳～69 歳）
- 道路や歩道の整備が不十分だと感じます。交通量の問題など、その他色々事情もあるかと思いますが、特に通学路は優先して取り組むべき事例だと感じますのでご検討下さい。少子化な時代、少しでも子供達の危険を排除出来るようご尽力下さい。宜しくお願い致します。（女性・40 歳～49 歳）
- 市内に引っ越して約１０年たちましたが、歩道の狭さ、交通手段（バス）のなさが気になります。今後、１０年後を考えた時に車の運転ができなくなると買い物に行くのも大変なのではと思います。近くに商店もないので不安です。少なくなる税金の有効な使い方を期待しています。（女性・40 歳～49 歳）
- 歩道が狭く場所によっては段差が激しかったり舗装が荒いところがあったりするので整備してほしい。公園が小さいものを多数作るより数は少なくても大きいものを作ってほしい。（女性・40 歳～49 歳）
- 船橋市は公園の配置が集中しており、公園のない地域に公園の設置を望みます。高齢化、地域活性化の対応のためできれば従来型ではないものを望む。（女性・70 歳～79 歳）
- 子供達がボールを使って遊べる公園（広場）をもう少し増やしてほしいです。何カ所かできたようですが、うちからは遠く、なかなか行くことができません。（女性・50 歳～59 歳）
- 駅から家が遠いので自転車通勤をしたいが、駐輪場が少なすぎて抽選に当たらない。もっと増やしてほしい。（女性・30 歳～39 歳）
- 「１０年後の船橋市の未来」とした場合、長期的ビジョンの設定年数に「１０年」とするのは短すぎる。インフラの整備改修は１０年間で考えた場合と２０～３０年で考えた場合とでは、その維持費等無駄な改修が発生する場合もある（建て替えた方がコスト安になることがあるという意見）。インフラ整備は中長期的視点から検討してもらいたい。（男性・30 歳～39 歳）

【財政・政策】

- 安易に行政サービスを減らすのではなく、若い世代が他から流入したくなるような魅力的な施策を行うべき。それにより税収増を目指してほしい。（男性・40 歳～49 歳）
- 市民の負担を増やす事になった場合、身を切る改革も同時に行うべき。（男性・40 歳～49 歳）
- 高齢化社会になり昔のまま続けていても崩壊してしまう危険がよく分かりました。見直しをとことんしていただき、不要な事、物、活用されていない物など削減して、少しでも市債に影響が増えないようにして頂きたいです。自分の子供達もこの船橋市で生活をさせていただきたいので、これからの未来の為にも一層力を入れて頂けたらと思います。（女性・40 歳～49 歳）
- 大きな市のイベントは良いＰＲ活動だと思うが、コストがかかりすぎだと思う。民間の援助や協賛、誘致などあってもよいのではないか。実施によって経済が活気づき税収入が増えるなら話は別だが。（男性・18 歳～19 歳）
- 市内エリアへの企業誘致を行って労働人口の増加を目指すべき。（男性・30 歳～39 歳）

● 今回のアンケート調査しかり直接市民の声を聞いてみる機会を増やし反映させていく事はとても大切と考えます。政・官が考え帳尻合わせ的施策を押し進めれば必ず一般市民のニーズとの差異が生じます。逆に本当に市民が必要と考えるものならば、ある程度の協力負担もありなのではと思います。本当に必要とするものは何か、困っている事は何か、偏りなく検討して頂く事を切望します。直接市民の意見や声を聞ける機会や場所がもっとたくさんあれば良いと思います。（女性・50 歳～59 歳）

【子育て・教育】

● 少子高齢化と言いながら、第三子の手当が少ないように感じます。第三子以降を望む後押しの政策をのぞみます。（女性・30 歳～39 歳）

● 幼児教育無償化で市の負担が増加することには断固反対です。また、無償化になった場合でも給食費と延長保育代は親が負担すべきと考えます。小学校でも学童、給食代は親が負担しています。（女性・40 歳～49 歳）

● 認可外保育園の補助金がとてもありがたいです。船橋市に住んでいるメリットを強く感じます。（男性・30 歳～39 歳）

● 文化的な事業が沢山あって魅力がいっぱいの船橋ですが、利用が少ない（ニーズがないのに存在するもの）等が時々見受けられます（飛台など）。そのような部分をもう少し精査して無駄をなくしてもいいのかなと思います。（女性・40 歳～49 歳）

● 図書館が少なくそれほど広くもないので、そのような文化的なものを充実させてほしい。（女性・40 歳～49 歳）

● 西図書館や三番瀬の学習館、児童ホーム等、いろいろなイベントを開いていて子供たちはとても楽しいようです。（女性・40 歳～49 歳）

● 公共施設の一部を認可保育園や一定年齢（小学校６年生くらいまで）の子どもの預かりをしてくれるような場所（有料）を公民館や図書館などに作ると、子育て世代が利用しやすくなるのではないでしょうか（待機児童対策につながるかもしれません）。（女性・30 歳～39 歳）

【高齢者・障害者・地域福祉】

● 高齢者が体力体調に応じて何らかの仕事に就き易い施策が考えられるならすばらしいです。働けるだけ働く、働き続けられる何らかのシステムを検討し続けて頂ければと思います。（男性・60 歳～69 歳）

● 私も５０代後半となり今は働いていますが、これからの少子高齢化の世の中が心配です。高齢者がいきいきと仕事、ボランティア、サークル、介護、又は助け合う（学習）何か基盤があればいいと思います。（女性・50 歳～59 歳）

● 高齢の親を介護保険を利用して介護しているが、本当に使いたいサービスが利用出来ず対象外であったりする。利用したい場合は実費になると言われ、想定外のお金がかかる為利用出来なかったりする。これでは介護保険費を払っている意味がない。これから益々高齢化が進んでいき、介護されるものにとって本当に利用したいサービスはどんなものなのかを汲み取り、お金がない為手厚い援助が受けられない世の中にしないで欲しい。（女性・50 歳～59 歳）

● 障害のある子がいる親（母）が働きに行く事ができない。預け先が都内などには沢山あるのに、船橋には全然なく、働きたくても働ける環境じゃない。働く世代の人口減少により市税収入が課題になるなら、働きたいと思っている人の為に預けられる様な施設や場所を作ってほしい。（女性・20 歳～29 歳）

【人件費・職員配置】

● 船橋市は他の都市に比べ公務員の平均給与が高い方となっています。上級職の給与（特に手当等）の見直し、退職金の削減をまず先にやってほしい。市民に税の負担を強いるのであれば、少しでも議員や市政に関わる人にもっとコストを考えてほしい。（女性・30 歳～39 歳）

● 今はまだ船橋市の職員や議員の給料が高すぎることが一番の不満です。そのお金を学校や図書館に回してほしいです。（女性・40 歳～49 歳）

● 船橋市役所職員の仕事は非常に遅いと感じることが多いです。仕事の能力ＵＰにより削減できる人員、経費などにも目を向け、全て税で解決しようとしないで欲しい。（男性・30 歳～39 歳）

● ＦＡＣＥ（市役所）などに行くと暇にしている係と忙しい係があり、うまく人数調整できないかと思う。（女性・60 歳～69 歳）

【まちづくり】

● 都心への通勤圏内にもかかわらず、飯山満駅など開発が進んでいない地域があり、ベッドタウン化されていないように見うけられます。住宅地としての価値を上げることで他地域からの流入や商業の発展などを見込めると思いますので、なるべく早く整備を進めて頂ければと思います。（男性・50 歳～59 歳）

● 船橋市は住んでいる人からすると、とても住みやすく、少なくとも千葉県の中ではＮｏ．１だと思っています。ただ船橋市の中でも、南部方面ばかりが栄え、私が住んでいる二和も含め北部地域はあまり昔から発展もなく、なんとなく見捨てられているように感じてしまうこともあります。北部地域にもう少し力を入れて欲しいです。（男性・30 歳～39 歳）

● 市域が広すぎて個々に孤立した街です。船橋中心部に出るにしても電車、バス、車でも不便です。今さら公共交通機関の充実はのぞむべくもありません。個々の拠点に重点的に公共施設を集約して効率化していくしかないと思います。街の集約化していく政策はとれないのでしょうか。他の地方都市も空洞化して街の活気がありません。船橋もそうならない様な政策が必要ではないでしょうか。（男性・70 歳～79 歳）

【ごみ・リサイクル】

● ゴミの有料化を進めて欲しい。乏しい資源が結果的にゴミと化していると思っている。食品ロスや過剰包装等々。（女性・70 歳～79 歳）

● ゴミのリサイクルについてです。プラスチックやビニールなどのキレイなものは再利用している自治体も多いと思います。リサイクルできる物はなるべくリサイクルした方が良いと思うので検討して下さい。（女性・30 歳～39 歳）

● 可燃ゴミの収集回数を週３回から２回に変更する前にもう少しその目的や可燃ゴミを資源ごみに分別への協力を周知する事が必要だったのではと思います。ゴミの減量は今後進めていくべきだと思いますので、ポスターを作って分別の方法などを分かりやすく知らせて下さるような方法を考えて頂きたいと思います。（女性・50 歳～59 歳）

- ごみの集荷が週２になりました。私は賛成です。週２になってごみが減ったのか等、成果を知りたいです。（女性・40 歳～49 歳）
- ごみ収集を週３回に戻して下さい。子育て世帯はおむつ等ごみが多くて大変です。お金のかかることで市の方もやむをえずだと思いますがよろしくお願いします。（女性・20 歳～29 歳）
- ごみステーションの巡回等の強化をやっていただき致し度く。今の時点で非常によごれた状況になっています。ステーションの場所の見直しも必要かとも考えられます。美しい町づくりにもなるかと思います。（男性・70 歳～79 歳）
- 市の焼却ゴミが増えている件に関連して、近年スーパーではレジ袋代を取る店が増えてきましたが、コンビニや小売店では品物を袋に入れて出すのが普通になっています。例えば、箸一膳でもです。市民にもですが、店舗等への指導、通達をした方が良いのではないですか。（女性・80 歳以上）

【情報発信】

- 市と住んでいる市民が一体となって今後の未来について考えなければならない時代になっていくのかと思いました。そうなっていく為には市からの発信をしていき、市民が安心してすごしていけるように協力お願いしたいですね。（女性・20 歳～29 歳）
- 市の動きをインスタやＬｉｎｅお友達等でも見やすくして頂きたいです。（女性・30 歳～39 歳）
- 市の税収の使われ方、公共施設の維持費など、どの収入がどれくらい使われているのかまるでわかりません。ホームページにしてももっとわかりやすくお金の流れを見られるようにしてほしい。お金に関わる事全てをクリアにして下さい。（女性・40 歳～49 歳）
- 今回のアンケートにより、今後のきびしい状況が理解出来た。今後もっと具体的にきびしい情報を目に入るよう発信して欲しい。地方再生は他人事のように考えていた。これからの高齢者はきびしい時代に突入するとの実感がわいてきて、こわくなってきた。（男性・60 歳～69 歳）
- ２、３年前全国で一番住みたい市で第一位になったと聞いておりますが、その後は？船橋市をもっと活性化するための全国へのＰＲが足りないのではと感じます。（女性・70 歳～79 歳）

【公共施設】

- 公共施設の有効活用を推進すべき。又、公共施設の削減は仕方ない。（男性・60 歳～69 歳）
- 使用頻度の低い施設や事業を縮減することが必要。（女性・40 歳～49 歳）
- 高齢化の進展、労働人口の減少等に伴い、公共施設の縮減はある程度やむを得ないことは理解できるが、そればかりでは縮小均衡に陥りかねない。長期的、総合的なビジョンを策定し（例えば、少子化を防ぐために若い世代の誘致策）、それに基づいた施策を併行して実施する必要があると思います。（男性・70 歳～79 歳）
- 学校施設の見直しを進めていく上で費用の面からプール施設を近くのスポーツ施設の代用をした方が少子化、メンテナンス費の節約の面から効率が良い。（無回答・40 歳～49 歳）
- 毎年の会計予算を使い切るのではなく、余ったら次年度に回す。年度末に無駄な工事をしない。使わない施設を民間に貸して利益を得たら市民のためになる事に使用する。公共事業は利益を得てはいけないと言われるが、税収入が減っているのだから良いと思う。（女性・60 歳～69 歳）

【病院・医療】

- 医療費の負担、高校生まで３００円にしてほしいです。（女性・40 歳～49 歳）
- 予防医療に積極的に取り組んでもらいたい。（男性・70 歳～79 歳）
- 高齢者へのサービスも過剰になると本来持っているはずの自立心を失っていく流れを作ることと思われる。医療制度について処方された薬品がいかに廃棄されているか実態を把握し改善を早急に望みます。（女性・70 歳～79 歳）

【民間活力】

- 直接市が関わらなくても良い事業は民間に委託していっても良いのではないか、職員の削減につながり人件費の縮小になる。市民への負担増も検討課題かもしれないが、市内部の事業の削減、民間の活用も大切だと思う。（男性・40 歳～49 歳）
- 民間事業者の意見や運営などの力を借りるのは必然です。公共施設や市役所関連で勤務されている方々の対応やサービスが悪すぎます。市民に対する気遣いや心遣いが感じられません。（男性・40 歳～49 歳）
- 船橋市の人口は増加していると思うのですが、東京と比べると様々な面で遅れているという気がします。民間にもっと力を借りた方がいいと思います。市でやるよりサービスは絶対に向上します。図書館の民営化はとてもよかったので、学童クラブもそうして欲しいです。市で運営した方が安心というのは幻想だと考えます。民間で競わせて（市はしっかりしたところを見極め）運営は民営の方がいいと思っています。（女性・40 歳～49 歳）
- 民間活力を導入することには賛成しますが、プライバシーの保持が問題。（女性・70 歳～79 歳）
- 今後の船橋市の課題について、これまでのやり方や考え方を変えていくことが必要です。大いに賛成します。民間活力を導入するだけでなく、民間会社のやり方、民間会社の考え方を積極的に導入するべきと考えます。（男性・40 歳～49 歳）

【アンケート関連】

- 今まではあまり関心を持っていなかったが、このアンケートに答えて他人事ではないのだなと思いました。これからは市政に関する情報を気にかけて自分に出来る事を考えていこうと思います。（女性・50 歳～59 歳）
- このようなアンケートにかかるお金、不必要な印刷物などお金がもったいないといつも感じています。（女性・30 歳～39 歳）
- 今回このアンケート調査に協力することで、今まで知らなかった借金の返済が急激に増加すること等、市政について考える機会が持てたのは良かったと思います。将来を見越して行財政改革をしていかねばならないことには賛成です。県内でも比較的裕福な方だと思っていたのですが、今から少しずつ見直していかなければならないことがあると改めて感じました。（女性・30 歳～39 歳）

【安心・安全】

- もっと防犯灯の設置、増設、カメラ等の設置には市の税で増やすべきである。（男性・60 歳～69 歳）
- 交通事故増える中、高齢者７５才以上については更新の返納により移動手段の補助など増やして高齢者の運転を減らす。（男性・60 歳～69 歳）

● 防犯について、最近船橋市の治安が悪くなってきているような気がします。個人個人の意識だけでなく、市でも何か新しい対策が必要なのではないでしょうか？（男性・40 歳～49 歳）

【税金】

● 船橋市の税金のあり方がいまいち明確でないように感じられます。（女性・40 歳～49 歳）

● 市税収入が減少してサービスが低下するのは困ると思いました。市税の使い道も大変気になります。市民のみなさんから預かった大切なお金ですので、市の職員の方々も大変かと思いますが、大切に使っていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（女性・50 歳～59 歳）

● ふるさと納税の税金流出でサービスの低下が気になる。（男性・40 歳～49 歳）

● 税金は適正に使われているかどうかを見直すことも必要かと思う。少子化をただ黙って眺めているだけではなく、子どもを産んで育てたいと思わせるような魅力的な町になることを期待します。（女性・40 歳～49 歳）

【業務改善】

● 行政全般の事務の効率化をお願いしたいです。システム化できることと人でないと対応できない業務を整理し、ぜひこれまでと同じ予算でこれまで以上の仕事をしてほしいです。（男性・30 歳～39 歳）

● 健康診断結果が病院と市の保健の方と同じものが届きます。これこそ無駄だと思います。（女性・70 歳～79 歳）

● 市の業務を効率化すると共に無駄をなくすように努力すること。公共事業を見直し本当に必要かどうか徹底的に検討すべきである。（男性・70 歳～79 歳）

【窓口対応】

● 窓口の対応時間も長く使いやすいと思うので、システム化による問い合わせの自動受け付けや、申請書類の自動処理、又は支援など職員の作業効率を上げる部分にお金を使ってほしい。（男性・20 歳～29 歳）

● 保育園や学校において、また、出産届においても同様だったが、住所、名前など同じ情報を何度も記入させられた。役所内においてもマイナンバーなどで情報を共有し、同じ情報を何度も手書きしなくても良いようにして欲しい。訂正箇所だけ記入できれば良い。（女性・40 歳～49 歳）

● コンビニ等に設置されているＡＴＭを使用したサービスをもっと増やして欲しいです（今まで以上に他の市町村や地域で取扱可能にする等）。平日の昼間に時間が取れないためです。（女性・50 歳～59 歳）

【受益者負担】

● 子育て家庭、非課税高齢者等へ配慮した上で受益者負担の原則を進めてほしい。又、健康保険、市民税未払いへの取り立てはしっかりやってほしい。（男性・60 歳～69 歳）

● 公共施設といえども減価償却引当金のようなものの導入とか将来財政を含めた恒久的財政の伴った対策はとれないか？（男性・70 歳～79 歳）

● サービスを維持、またそれ以上にするにはお金がかかる事は多くの方が理解していると思います。〝今〟ではなく、自分が年をとった時にでも安心して生活できる保障の為の負担であれば、納得できると私は思います。（女性・30 歳～39 歳）

● 子供がスポーツをしているので、わが家で利用している公共施設の中に、運動公園の体育館があります。誰でも気軽に利用できる代金に設定されているのだとは思いますが、あれだけ充実している施設に対して、利用料金が安すぎはしないか…というのは常々感じています。運営費に対して利用料金はどのくらいの割合なのでしょうか？もう少し高く設定しても、負担感はないかと思います…。たいてい複数人で使っているので、割ると数百円／人ですので。（男性・40 歳～49 歳）

【外国人対応】

● 居住周辺もそうだが、市全体的に外国人労働者が非常に多い。周辺に日本語学校、工場等があるので学び働いてもらう事は今後必要な事なのですが、ゴミ捨てやその他マナーがまったく守られていない。住みにくい町になっていると思う。市と民間が協力して改善に取り組むべき内容だと思う。（男性・30 歳～39 歳）

● 今までいろんなことを満足していますが、外国人にはもっと英語とか多国語で情報があればいいと思います。年をたつと船橋に住んでいる外国人がどんどん増えてくるのはやむを得ないので、英語でチラシとか公共情報とか、このアンケートとか与えられた方がいいのではないか。（女性・20 歳～29 歳）

● 私は外国人ですが、国際交流に関するサービスにもっと力を入れてほしいです。日本が大好きで、日本社会に溶け込むために週末はいつも日本語を話す相手を探していますが、なかなか相手がいません。（男性・20 歳～29 歳）

【交通機関】

● 近隣にお店がなくなり買い物が不便になりました。バスの運行を増やしてほしい。（女性・70 歳～79 歳）

● 駅からもバス停からも遠く、車か自転車しか手段がないなか、祖父母や地域のお年寄りがどこも行くことができず、その様子をいつも見ていて胸が痛いです。シャトルバス等をそういった地区に走らせていただきたいと常々思っております。（女性・20 歳～29 歳）

【たばこ】

● 受動喫煙ゼロだけでなくタバコのポイ捨てにも防止対策をして欲しい。家の前の道路はバス停近くの為ポイ捨てが止まりません。枯れ葉の多いこの季節は吸い殻を見つけるだけで怖くなります。「ポイ捨ては放火と同じ重罪」と思ってます。（女性・60 歳～69 歳）

● 歩きタバコ、駅前や駅近店舗入口（屋外）での喫煙所ももっと対策してほしい。通勤時間帯は特に街中が煙くタバコ臭い。子供が多い船橋市でこの現状はあまりにヒドイ。（女性・30 歳～39 歳）

【選挙、投票】

● 期日前投票所を増やしてほしいです。（女性・60 歳～69 歳）

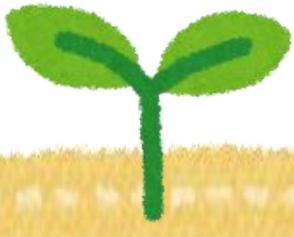
● 各市で人口減少がある様ですが、船橋はまだ増加しているので、この先魅力ある市をつくって頂きたい。丸山の選挙区が変わってしまい疑問に思う（国政の事ですが）。（男性・70 歳～79 歳）

Ⅳ．調査パンフレット及びアンケート調査票

船橋市 Funabashi City

「行財政改革の推進に関するアンケート調査」

（調査パンフレット）



はじめに

市民の皆さまには、日頃より市政へのご理解、ご協力をいただき
心より感謝申し上げます。

このアンケート調査は、船橋市が、今後将来への対策として
進めていく取り組みについて、
広く市民の皆さまのご意見をお聞きし、
今後の行財政改革の推進にあたっての基礎資料とするものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき
ご協力くださいますようお願いいたします。

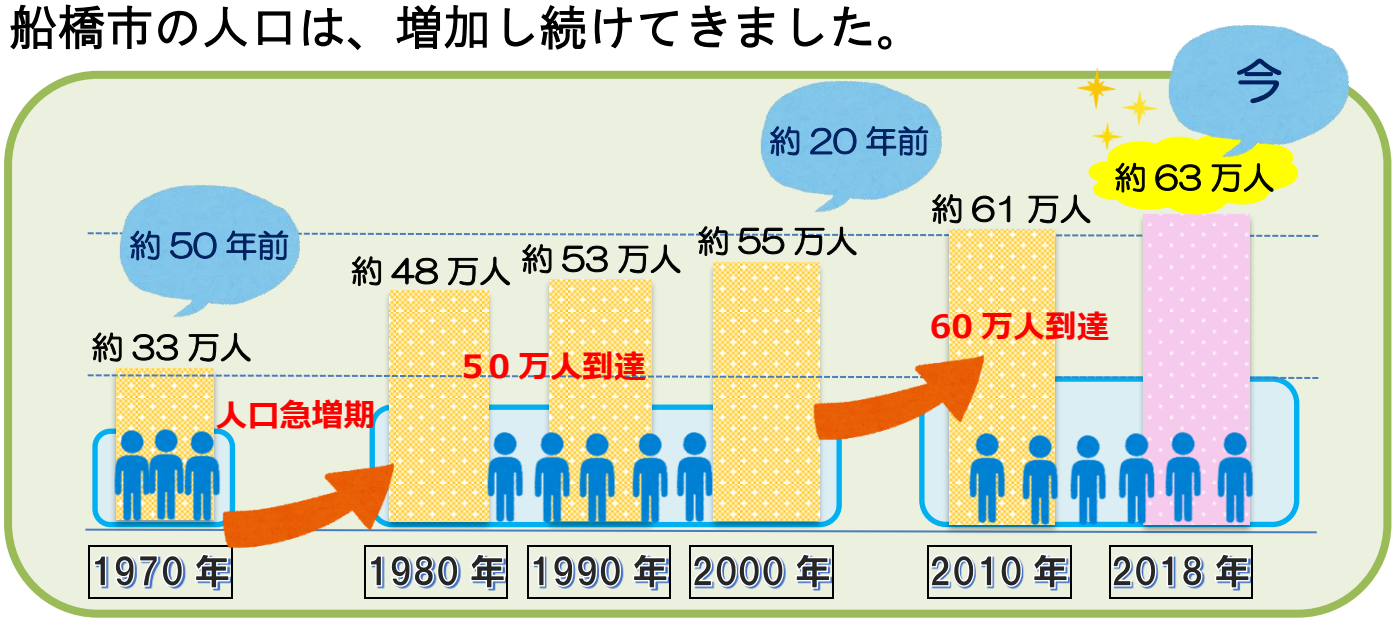
2018(平成30)年11月

船橋市長　松戸　徹

※アンケート調査票に回答する前に
お読みください。

これまでの船橋市の歩みについて

１９７０年代の人口急増期から、今（２０１８年）にいたるまで
船橋市の人口は、増加し続けてきました。



船橋市の市民サービスは、これまで
働く世代の人口増加による税収増に支えられてきています。

船橋市は、市民の皆さまのニーズに対応するため、
これまで、たくさんの事業を推進してきました。

公共施設の整備を積極的に実施

- 学校の耐震化
- 清掃工場建替え
- 道路や公園整備　など

きめ細かい市の独自施策を実施

- 各分野における市独自の補助
- 待機児童対策　など

市民負担軽減のため市が費用の一部を負担

- 国民健康保険料、保育料
- 下水道使用料　など

今後の船橋市の課題について

課題①

少子高齢化がますます加速していきます

船橋市においても１０年後は、働く世代の減少による税収減や社会保障経費のさらなる増加が見込まれます。

市民の約４人に１人が 65 歳以上に

高齢化が進むと…

介護や医療などの
社会保障経費が増加します。

働く世代の人口が減ると…

市税収入が減少します。

課題②

公共施設は老朽化し、返済する公債費は増大していきます

◆公共施設などが次々と老朽化します

急激な人口増加にともない整備された多くの公共施設等が老朽化し、その維持・更新には、今後多額の費用が見込まれます。

◆インフラの整備を進める必要があります

厳しい財政状況においても、市民の皆さんが安心して暮らすうえでは欠かせない、道路や河川などの都市基盤の整備を進めていく必要があります。

◆借金の返済が急激に増加します

近年、船橋市は学校の耐震化や清掃工場の建て替えなど公共施設の整備に積極的に取り組んできましたが、それらの多くは国からの補助金のほか、借りたお金（市債）で賄われています。
今後、市債を返済するためのお金（公債費）が増大し、高水準で推移していくことが見込まれます。

これらに加えて

◆支出が収入を上回り貯金が減少しています

市の貯金（財源調整基金）の残高が徐々に減少しており、このままでは近い将来、底をついてしまう可能性があります。

これらの課題を解決していくために…

これまでのやり方や考え方を変えていくこと

（＝行財政改革）が必要です！

船橋市の現在の行財政改革の取り組み

限られた財源の中で、市民サービスを将来にわたって安定的に提供していくためには、今後、お金の使い方の見直しや収入を確保するための工夫、民間活力の導入や業務の見直し、効率的な組織体制の構築などの取り組みが必要です。

船橋市では、平成 28 年度に行財政改革推進本部を設置し、平成 29 年度からは外部有識者等で構成される「行財政改革推進会議」で行政のさまざまな課題について議論が交わされ、意見書としてまとめられました。

こちらからアクセス

※「行財政改革推進会議」の会議の様子や意見書は市のホームページでご覧いただけます。

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ URL：http://www.city.funabashi.lg.jp/shisei/jouhoukoukai/004/02/151/index.html

アンケートご回答にあたってのお願い

このような視点から、ご意見をお聞かせください

視点その１

市民サービスを**利用する立場**から

だけではなく

そのサービスを維持するためのお金を

一緒に負担していく立場から

ご意見をお聞かせください

視点その２

１０年後の船橋市の

未来を想像しながら

ご意見をお聞かせください

→　ありがとうございました。調査票の記入へお進みください

「行財政改革の推進に関するアンケート調査」

（アンケート調査票）

※こちらの冊子に直接ご記入ください

回答にあたっての注意事項など

◆アンケート調査票への回答方法

この調査票に回答をボールペンまたは鉛筆で直接記入してください。

同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

●調査の実施にあたりましては、市内にお住まいの満 18 歳以上の方から無作為に 3,000 名を選ばせていただきました。

●アンケート調査票は無記名ですので、お名前のご記入は必要ありません。回答結果は統計的に処理いたします。

●アンケート調査票は、対象とさせていただいた（あて名の）ご本人がご回答ください。

●各設問の回答は、あなたのお考えにもっとも近いものを選び、その番号に『○』をつけてください。『○』の数は、設問ごとに指定されておりますので、その指示に従ってください。また、『その他』を選択した場合は、その理由や内容をできるだけ具体的に記入してください。

◇ご記入いただいたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れ、

１１月２９日（木）までに切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

◇返信用封筒にお名前やご住所を記入する必要はありません。

※ ご不明な点、ご質問等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

＜本調査に関するお問い合わせ＞

○船橋市役所　企画財政部　政策企画課　行財政改革推進係（担当：吉田、毛取（けとり））

○ＴＥＬ：０４７－４３６－２４６２（直通）　　E-mail：seisaku@city.funabashi.lg.jp

まずは、添付の
「調査パンフレット」をご覧ください。

はじめに、
「今後の船橋市」
について、うかがいます。

船橋市をより良くするために、「行財政改革に関すること」について、うかがいます。

市民サービスを「利用する立場」だけではなく、それを維持していくためのお金を「一緒に負担していく立場」という視点からも考えてみてください。

「10 年後の船橋市を想像しながら」ご意見をお聞かせください。

【アンケート調査票】

（ボールペンまたは鉛筆で、直接ご記入ください）

１　「今後の船橋市の課題」について、うかがいます。

問１）あなたは、「今後の船橋市の課題」について知っていましたか。
（○はア～エそれぞれに１つだけ）

	知っていた	聞いたことがある	知らなかった
ア．高齢化の進行による社会保障経費の増加	1	2	3
イ．働く世代の人口減少による市税収入の減少	1	2	3
ウ．公共施設などが次々と老朽化	1	2	3
エ．借金の返済が急激に増加	1	2	3

問２）「今後の船橋市の課題」について、あなたが関心をお持ちになったものは、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

1　高齢化の進行による社会保障経費の増加
2　働く世代の人口減少による市税収入の減少
3　公共施設などが次々と老朽化
4　借金の返済が急激に増加
5　関心を持ったものはない

２　「市が見直すべきこと」について、うかがいます。

問３）船橋市が支出を節減・抑制する上で、あなたが重点的に取り組む必要があると思うものは、次のうちどれですか。（○は３つまで）

1　行政全般の事務の効率化
2　類似事業の集約化によるコスト縮減
3　事業を整理し、必要な事業を重点的に実施
4　補助金の削減や見直し
5　公共事業の優先順位づけ
6　公共施設数の削減や他施設への複合化
7　民間の資金を活用した公共事業の実施
8　その他（　　）

３　「公共施設のあり方」について、うかがいます。

問４）船橋市の公共施設の多くは老朽化が進んでおり、今後、多額の維持・更新費用を要することが見込まれます。

今後の公共施設のあり方について、「利用者」としてのあなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない
2	公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい
3	公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい
4	その他（　　）

問５）公共施設を維持・更新していくためには、皆さまから納めていただいた多くの税金を使う必要があります。

今後の公共施設のあり方について、「納税者」としてのあなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	公共施設は、人口規模などに合わせて統廃合等により縮減していくことはやむを得ない
2	公共施設は、必要に応じて他の施設に転用したり、資産を民間に貸したり売却することが望ましい
3	公共施設は、今後も現状の数や規模を維持することが望ましい
4	その他（　　）

問６）船橋市が保有する公共施設のうち、学校は総面積の約５０％を占めていますが、将来的に子どもの数が減少し、教室に余裕が生まれることが見込まれます。

今後の学校のあり方について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	将来的な子どもの数に合わせて、学校の統廃合等を進めていくことはやむを得ない
2	余裕教室が生まれた場合は、他の公共施設を入れるなど有効活用することが望ましい
3	現状を維持した方がよい
4	その他（　　）

４　「民間活力の導入」について、うかがいます。

【なぜ民間活力を導入するの？】

厳しい財政状況の中では、増加していく市民ニーズに限られた職員で対応していくために、市の窓口の運営や施設の管理運営などに民間事業者の力を借りること（例：指定管理者制度の導入）によって、より効率的な行政運営に転換していく必要があります。

また、民間事業者の持つノウハウを活用することで、さらなるサービスの向上が見込めるという効果も期待できます。

問７）近年、行政機関の窓口業務や公共施設の管理運営などに民間事業者の力を借りる動きが増えています。あなたは、この動きを知っていますか。（○は１つだけ）

1	知っている
2	聞いたことがある
3	知らない

問８）船橋市が、窓口業務や公共施設の管理運営などに民間事業者の力を借りることについて、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	賛成　（→問 10 へ）
2	どちらかといえば賛成　（→問 10 へ）
3	どちらかといえば反対
4	反対

問９）【問８で「３　どちらかといえば反対」または「４　反対」と回答した方にうかがいます。】
問８で３または４を選択した理由について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	サービスが低下すると思うから
2	利用料金が高くなると思うから
3	公的なサービスは民間に任せると不安だから
4	その他（　　）

５　「市民サービスの水準と費用負担のあり方」について、うかがいます。

問１０）今後の市民サービスの水準と費用負担の関係について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1	市民サービスを維持・充実するためには、市民全体の負担が増えてもやむを得ない
2	市民サービスを維持・充実するためには、そのサービスを直接受けている利用者のみの負担を増やすことが望ましく、市民全体の負担を増やすべきではない
3	市民の負担が増えるなら、市民サービスを維持できなくてもやむを得ない
4	その他（　　）

ここからは、
「あなたご自身のこと」や「市政への関心」について、うかがいます。

あなたの性別や年齢、職業、世帯構成、居住地など、「あなたご自身のこと」についてお答えください。

その他、あなたの「市政への関心」についてもうかがいます。

なお、最後に自由記入欄もありますので、船橋市の市政に関するご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

６　「あなたご自身のこと」について、うかがいます。

問１１）「あなたの性別」は、次のうちどれですか。（回答は任意です。○は１つだけ）

1　男性	**2**　女性

問１２）現在、「あなたの年齢」は、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1　18歳～19 歳	**3**　30 歳～39 歳	**5**　50 歳～59 歳	**7**　70 歳～79 歳
2　20 歳～29 歳	**4**　40 歳～49 歳	**6**　60 歳～69 歳	**8**　80 歳以上

問１３）現在、「あなたの職業」は、次のうちどれですか。（○は１つだけ）

1　農業・漁業	**6**　学生
2　会社員・団体職員・公務員	**7**　専業主婦（主夫）
3　自営・自由業・経営者	**8**　無職（年金生活を含む）
4　家族従業（「１」を除く）※	**9**　その他（　　）
5　アルバイト・パート・契約（派遣）社員	

※「家族従業」とは、個人事業主の家族で、その事業を手伝っている者。

問１４）現在、「あなたと同居している方」は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

1　いない（単身者）	**3**　子	**5**　その他（　　）
2　配偶者	**4**　自分や配偶者の親	

問１５）現在、「あなた」または「あなたと同居している方」の中に、次の方はいますか。（○はいくつでも）

1　妊娠中の方	**4**　中学生	**7**　いない
2　未就学児	**5**　65 歳以上の方	
3　小学生	**6**　介護を必要とする方（年齢問わず）	

問１６）現在、「あなたのお住まい」は、次のうちどれですか。
右の枠内にあてはまる町丁名の番号を記入してください。

記入欄	

あ	1　旭町	か	21 北本町	た	41 高瀬町	は	62 飯山満町	ま	81 三咲
	2　東町		22 行田		42 高根台		63 浜町		82 三咲町
	3　市場		23 行田町		43 高根町		64 東中山		83 緑台
	4　印内		24 楠が山町		44 滝台		65 東船橋		84 湊町
	5　印内町		25 車方町		45 滝台町		66 日の出		85 南海神
	6　大穴町		26 高野台		46 田喜野井		67 藤原		86 南本町
	7　大穴北		27 古作		47 坪井東		68 二子町		87 南三咲
	8　大穴南		28 古作町		48 坪井西		69 二和東		88 みやぎ台
	9　大神保町		29 小野田町		49 坪井町		70 二和西		89 三山
か	10 海神		30 小室町		50 豊富町		71 本郷町		90 宮本
	11 海神町		31 米ケ崎町	な	51 中野木		72 本町		91 本中山
	12 海神町東		32 古和釜町		52 夏見		※3丁目を除く	や	92 八木が谷
	13 海神町西	さ	33 栄町		53 夏見台		73 本町3丁目		93 八木が谷町
	14 海神町南		34 咲が丘		54 夏見町	ま	74 前原東		94 薬円台
	15 葛飾町		35 潮見町		55 七林町		75 前原西		95 薬園台町
	16 金杉		36 芝山		56 習志野		76 前貝塚町		96 山手
	17 金杉台		37 新高根		57 習志野台		77 馬込西		97 山野町
	18 金杉町		38 神保町		58 西浦		78 馬込町	わ	98 若松
	19 金堀町		39 鈴身町		59 西習志野		79 松が丘		
	20 上山町		40 駿河台		60 西船		80 丸山		
					61 二宮				

問１７）現在、「船橋市にお住まいになって通算何年」になりますか。（○は１つだけ）

1　5年未満	**2**　5年以上 10 年未満	**3**　10 年以上 20 年未満	**4**　20 年以上

７　「市政への関心」について、うかがいます。

問１８）あなたは、船橋市の市政に関心がありますか。（○は１つだけ）

1　関心がある
2　どちらかといえば関心がある
3　どちらかといえば関心がない
4　関心がない

問１９）あなたは、船橋市の市政に関する情報をどのように入手していますか。
（○はいくつでも）

1　広報ふなばし
2　市のホームページ
3　公民館などの掲示板・チラシ
4　友人や近所の人
5　電話での問い合わせ
6　自治会の回覧板・掲示板
7　ふなばしＣＩＴＹ ＮＥＷＳ
8　船橋市のＳＮＳ（フェイスブックなど）
9　その他（　　）

問２０）あなたが、関心のある市民サービスの分野は、次のうちどれですか。
（○は３つまで）

1　災害対策に関すること
2　防犯・生活安全に関すること
3　高齢者に関すること
4　障害のある方に関すること
5　子育てに関すること
6　医療、保健衛生、健康づくりに関すること
7　子どもの教育に関すること
8　生涯学習に関すること
9　文化、芸術に関すること
10　スポーツの推進に関すること
11　地域経済（農水産業、商工業）の活性化に関すること
12　自然環境、ごみ・リサイクルに関すること
13　道路等のインフラ整備に関すること
14　その他（　　）

８　自由記入欄

問２１）最後に、船橋市の市政に関してご意見・ご感想がございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

ご記入いただいたアンケート調査票は、返信用封筒（切手不要）に入れ、

１１月２９日（木）までに郵便ポストに投函してください。

行財政改革の推進に関するアンケート調査結果報告書

平成31年3月発行

【発　行】　〒273-8501　船橋市湊町２丁目10番25号
船橋市　企画財政部 政策企画課
☎　047（436）2462（直通）

【実　施】　〒151-8509　東京都渋谷区千駄ヶ谷４丁目８番６号
一般社団法人輿論科学協会
☎　03（3401）1131（代表）